

# 8

平成29年度

主要な施策の成果に関する報告書

< その2 >

多賀城市まちづくり報告書

(第五次多賀城市総合計画進捗状況報告)

平成30年9月

多 賀 城 市



## 目 次

### 8<その2>

この報告書は、3分冊で構成されています。この冊子は「8<その2>」です。

<b>IV</b>	<b>多賀城市まちづくり報告書(第五次多賀城市総合計画進捗状況報告)</b>	<b>1</b>
1	多賀城市まちづくり報告書(第五次多賀城市総合計画進捗状況報告)とは	3
2	全体の動向(施策別評価)	
	(1) 施策別評価の概要	4
	(2) 成果指標全体のうごき(施策・基本事業別)	4
	(3) 政策別の成果指標全体のうごき(施策・基本事業合計)	5
	(4) 成果指標全体の目標達成度(施策・基本事業別)	8
	(5) 政策別の成果指標全体の目標達成度(施策・基本事業合計)	9
	(6) まちづくりアンケートの結果	12
	(7) (参考)統計の見方	16
3	施策・基本事業の動向(成果指標等一覧)	
	(1) 施策・基本事業評価の見方	18
	政策1 安全で快適に暮らせるまち <安全・快適分野>	21
	政策2 元気で健やかに暮らせるまち <健康福祉分野>	51
	政策3 歴史・文化を継承し豊かな心を育むまち <教育文化分野>	79
	政策4 環境を大切にする心を育むまち <環境分野>	101
	政策5 集い つながり 活気あふれるまち<産業分野>	111
	政策6 心がかよう地域の絆を育むまち <地域経営分野>	125
	政策7 理解と信頼で進める自律したまち <行政経営分野>	135

この「主要な施策の成果に関する報告書」は、第五次多賀城市総合計画に基づく平成29年度の事業と決算のあらましについて、3分冊で構成されています。

7<その1>では、「各会計の決算概要」を掲載しており、あわせて参考資料も掲載しています。  
8<その2>では、「多賀城市まちづくり報告書」として施策・基本事業の動向等を掲載しています。  
9<その3>では、実施計画事業及び主要事業の「事務事業評価表」を掲載しています。

本報告書は、市民と行政とがまちづくりの進み具合を共有するための資料として作成し、公表しています。

なお、すでに公表している平成28年度までの本報告書については、市ホームページでもご覧いただけます。

## 7<その1>

<b>I</b>	<b>はじめに ～本報告書の基本的な考え方～</b>	<b>1</b>
<b>II</b>	<b>各会計の決算</b>	<b>5</b>
1	各会計の予算の概要	8
2	一般会計の決算 <概要>	10
3	一般会計の決算 <歳入の部>	
(1)	歳入の概要	12
(2)	市税等の収納状況	22
(3)	東日本大震災に係る条例減免の状況	25
(4)	地方交付税の状況	26
(5)	市債の状況	29
(6)	基金の状況	31
4	一般会計の決算 <歳出の部>	
(1)	歳出の概要	33
(2)	震災関連経費及び震災関連積立金の状況	34
(3)	通常経費の状況	38
5	一般会計の決算 <その他>	
(1)	地方創生の取組状況	41
(2)	行政改革の取組状況	42
(3)	人件費の決算状況	45
(4)	市の私債権の放棄の状況	48
6	国民健康保険特別会計の決算	50
7	後期高齢者医療特別会計の決算	64
8	介護保険特別会計の決算	70
9	下水道事業特別会計の決算	86
10	水道事業会計の決算	94
11	普通会計決算の概要	110

### Ⅲ 参考資料 119

1	東日本大震災関連事業の概要	
(1)	一般会計における震災関連経費の概要	120
(2)	一般会計における震災関連事業の概要(震災対応職員受入等事業)	123
(3)	震災関連支援の概要	124
2	決算関連資料	
(1)	普通会計決算関係資料	127
(2)	各会計歳出節別支出表	136
(3)	一般会計歳出節別支出表	138

### 9<その3>

### V 事務事業評価表 1

1	事務事業評価表とは	3	
2	「事務事業評価」と評価表の見方	3	
3	事務事業一覧	6	
	政策1	安全で快適に暮らせるまち <安全・快適分野>	13
	政策2	元気で健やかに暮らせるまち <健康福祉分野>	67
	政策3	歴史・文化を継承し豊かな心を育むまち <教育文化分野>	107
	政策4	環境を大切にする心を育むまち <環境分野>	149
	政策5	集い つながり 活気あふれるまち <産業分野>	159
	政策6	心がかよう地域の絆を育むまち <地域経営分野>	177
	政策7	理解と信頼で進める自律したまち <行政経営分野>	189

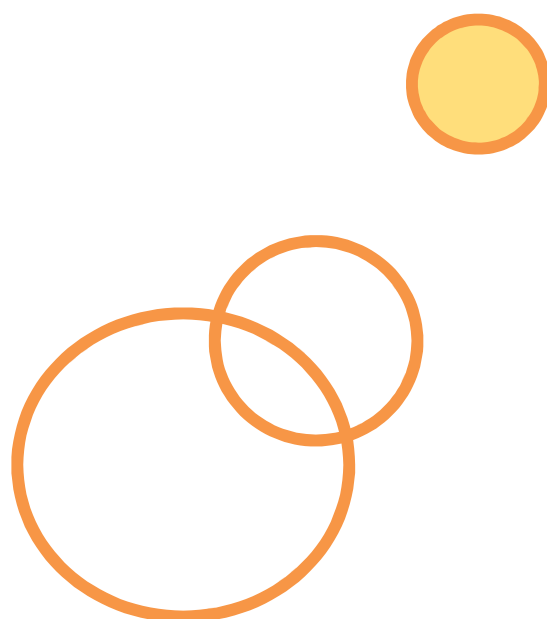


# Ⅳ 多賀城市まちづくり報告書

## (第五次多賀城市総合計画進捗状況報告)

---

---







# IV 多賀城市まちづくり報告書(第五次多賀城市総合計画進捗状況報告)

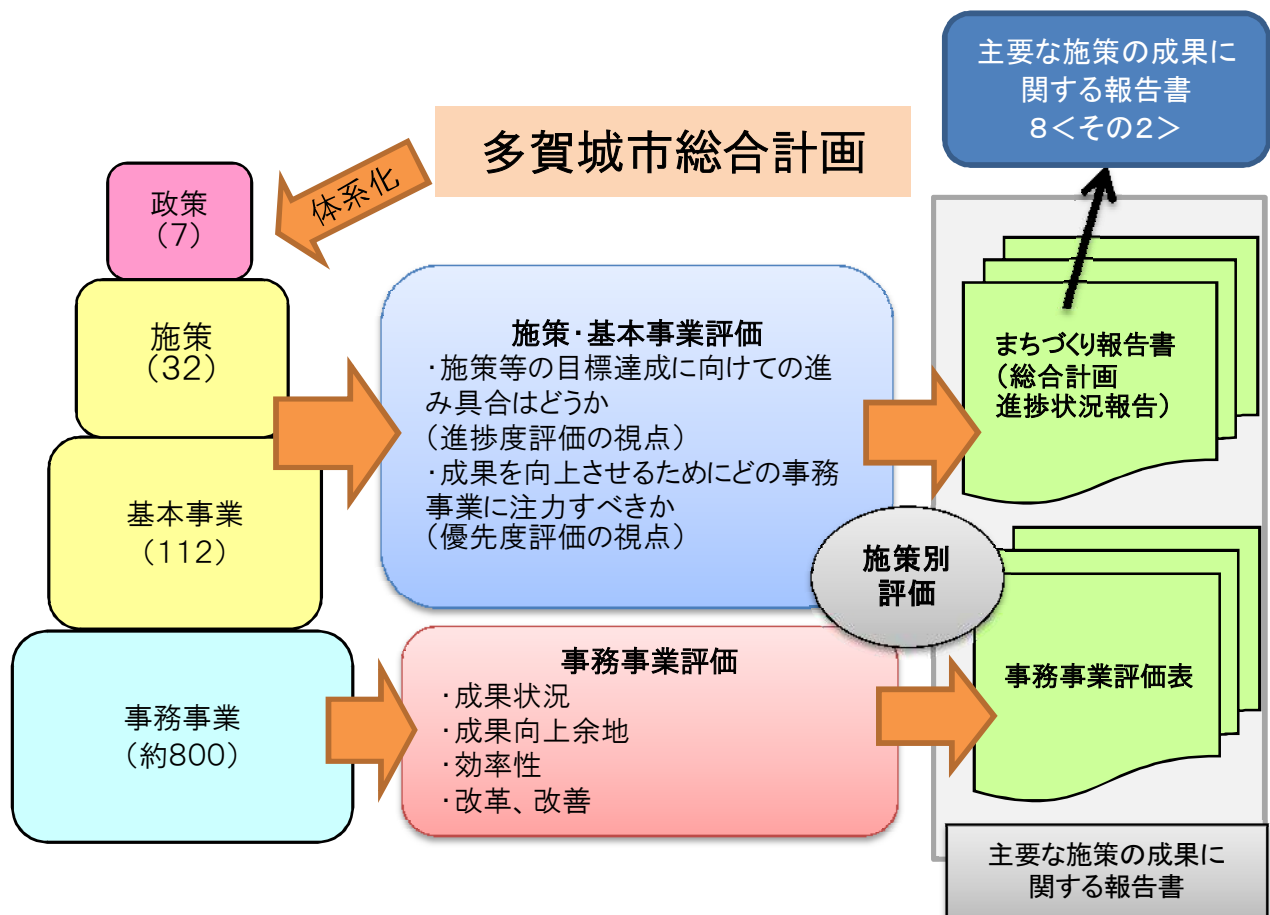
## 1 多賀城市まちづくり報告書(第五次多賀城市総合計画進捗状況報告)とは

多賀城市まちづくり報告書は、総合計画の目指すまちの姿の実現に向けて、まちづくりがどの程度進んでいるのか、事業の成果は上がっているのかといったことを示すため、平成29年度の決算を踏まえて、まちづくりの成果報告書として作成しています。

施策、基本事業における成果指標の推移を踏まえた成果状況等の結果を「施策別評価」として示すことで、総合計画の進捗状況等を明らかにしています。

また、複数年での指標の推移を確認することにより、指標のうごきが外的要因による突発的なものなのか、社会情勢の変化等による必然的なものなのかを見る目安となり、限られた行財政資源の「選択と集中」及び行政活動の「改革と改善」への活用が期待されます。

一般的には、事務事業の成果が向上することで基本事業の成果が向上し、基本事業の成果が向上することで施策の成果が向上する仕組みになっています。



## 2 全体の動向(施策別評価)

### (1) 施策別評価の概要

#### ① 施策別評価とは

施策別評価は、階層分けした施策及び基本事業について、成果指標の推移を踏まえた成果状況やその原因分析等の評価結果を施策ごとに示すものであり、これにより総合計画の進捗状況等を明らかにするとともに、その評価結果を次の施策や事業展開に活かしていくこととしています。

施策や基本事業に対して、その目的がどの程度達成されたのかを測るものさしとして「成果指標」を設定し、成果状況を数値で表すことで、総合計画の進捗状況や事業の成果状況を客観的に把握し、分析していくこととしています。

#### ② 指標のうごきからみるまちづくりの状況

施策・基本事業の成果指標の動向を後期基準値に対する「指標のうごき」で捉えるとともに、成果指標の平成32年度後期目標値に対する「目標達成度」を捉えることとし、これらをもとに総合計画の進捗状況を示しています。

### (2) 成果指標全体のうごき(施策・基本事業別)

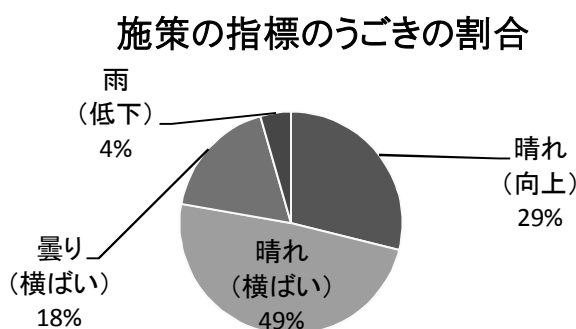
指標のうごきは、成果指標の後期基準値からの推移状況をもとに「晴れ(向上)」、「晴れ(横ばい)」、「曇り(横ばい)」、「雨(低下)」の4段階の区分で表しています【19ページ「指標のうごき」参照】。

施策と基本事業の「指標のうごき」の状況は下図のとおりとなっており、施策では「晴れ(横ばい)」が全体比率の49%と最も多く、次いで、「晴れ(向上)」が29%、「曇り(横ばい)」が18%、「雨(低下)」が4%となっています。

また、基本事業については、「晴れ(横ばい)」が全体比率の45%と最も多く、次いで「晴れ(向上)」が35%、「曇り(横ばい)」が12%、「雨(低下)」が8%となっています。

#### ① 施策数、成果指標数及び指標のうごきの割合等

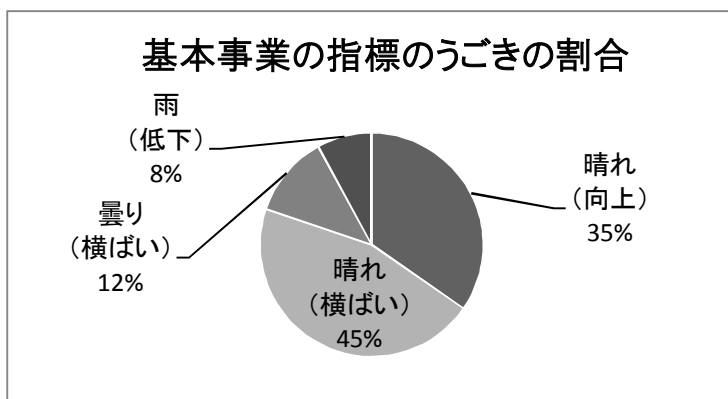
施策数	32
成果指標数	48
(内訳)	
晴れ(向上)	13
晴れ(横ばい)	22
曇り(横ばい)	8
雨(低下)	2
未設定等	3



※グラフについては、未設定等を除きます。

## ②基本事業数、指標数及び指標のうごきの割合等

基本事業数	112
成果指標数	227
(内訳)	
晴れ(向上)	70
晴れ(横ばい)	92
曇り(横ばい)	24
雨(低下)	16
未設定等	25



※グラフについては、未設定等を除きます。

## (3) 政策別の成果指標全体のうごき(施策・基本事業合計)

### ① 全体の傾向

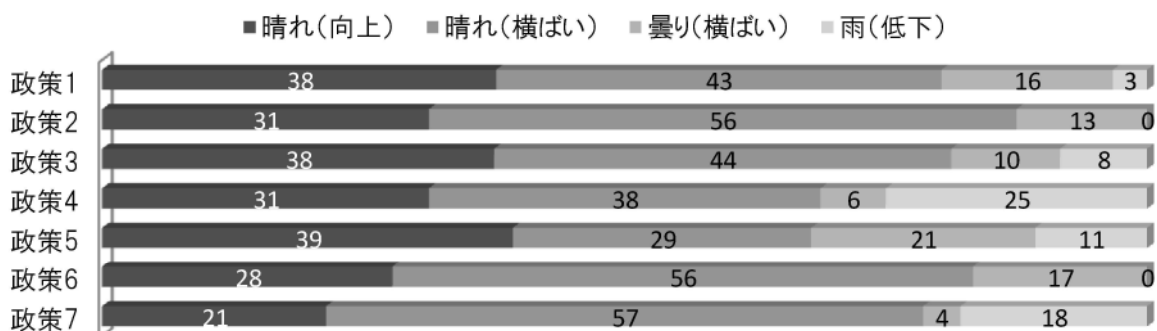
施策と基本事業の成果指標を「政策」ごとにまとめた政策別の成果指標のうごきの状況は下図のとおりとなっています。政策ごとに指標数や指標の性質等は異なりますが、「晴れ(向上)」及び「晴れ(横ばい)」の指標割合が多い政策は、政策2「元気で健やかに暮らせるまち」、政策6「心がかよう地域の絆を育むまち」、政策3「歴史・文化を継承し豊かな心を育むまち」の順となっています。

### ◎施策・基本事業の成果指標数及び指標のうごき

	晴れ(向上)	晴れ(横ばい)	曇り(横ばい)	雨(低下)	未設定等	計
政策1	23	26	10	2	2	63
政策2	15	27	6	0	16	64
政策3	18	21	5	4	2	50
政策4	5	6	1	4	1	17
政策5	11	8	6	3	1	29
政策6	5	10	3	0	0	18
政策7	6	16	1	5	6	34
計	83	114	32	18	28	275

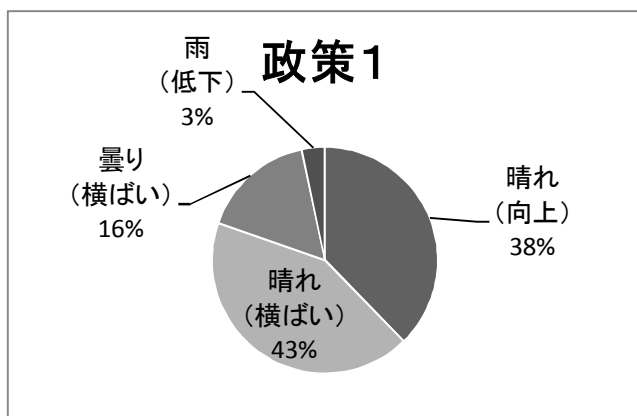
単位:%

### 施策・基本事業の指標のうごきの割合(政策別)



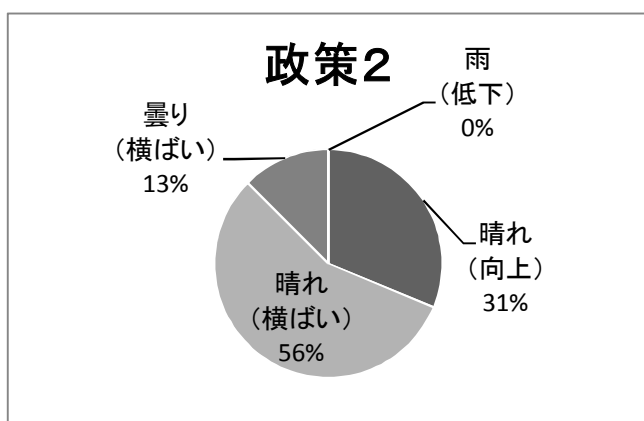
※グラフについては、未設定等を除きます。

## ② 政策別の傾向



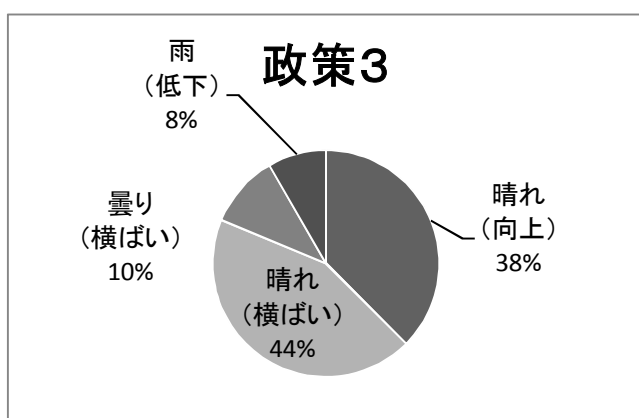
### 政策1(安全で快適に暮らせるまち)

- 成果が向上している主な基本事業等
  - ・下水道雨水面的整備率
  - ・夜間の防犯性を高める照明のLED電灯普及率
  - ・車道の利用に関して満足している市民割合
  - ・歩道の利用に関して満足している市民割合
  - ・良好な都市景観が創出・維持されていると思う市民割合
  - ・有収率
- 成果が低下している主な基本事業等
  - ・中心市街地における空き店舗数
  - ・突発的な断水事故件数(災害を除く)



### 政策2(元気で健やかに暮らせるまち)

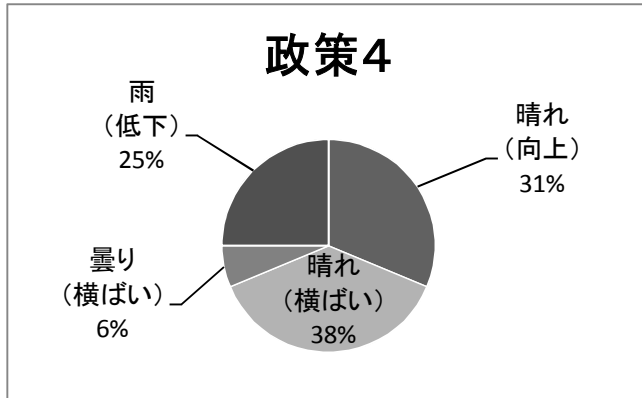
- 成果が向上している主な基本事業等
  - ・日常生活における見守り協定を締結している事業者数
  - ・1歳6か月児健診の経過観察者割合
  - ・教育・保育施設等の定員数
  - ・自分の子ども(乳幼児)に対して、育てにくさを感じている乳幼児を持つ保護者割合
  - ・認知症の方への対応方法を知っている市民数
- 成果が低下している主な基本事業等
  - ・なし



### 政策3(歴史・文化を継承し豊かな心を育むまち)

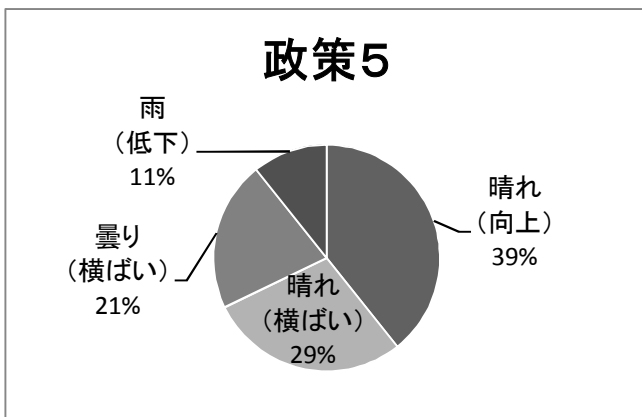
- 成果が向上している主な基本事業等
  - ・学校支援事業件数
  - ・授業がわかると答える児童・生徒割合
  - ・生涯学習講座等の延べ受講者数
  - ・市立図書館の登録者数
  - ・市内所在の文化財訪問者数
- 成果が低下している主な基本事業等
  - ・学習機会が充足していると思う市民割合
  - ・スポーツ普及団体の登録会員数

※グラフについては、未設定等を除きます。



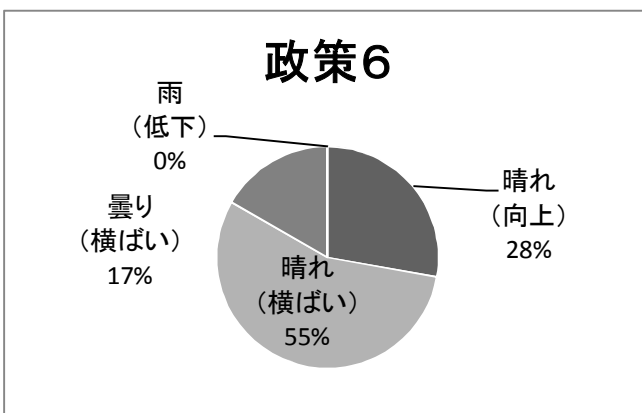
#### 政策4(環境を大切に作る心を育むまち)

- 成果が向上している主な基本事業等
  - ・市が開催した地球温暖化防止に向けた取組や環境事業の参加者数
  - ・生活公害苦情件数
  - ・市民1人当たり年間可燃ごみ排出量(家庭ごみ)
- 成果が低下している主な基本事業等
  - ・市役所及び出先機関の温室効果ガス排出量
  - ・リサイクル率



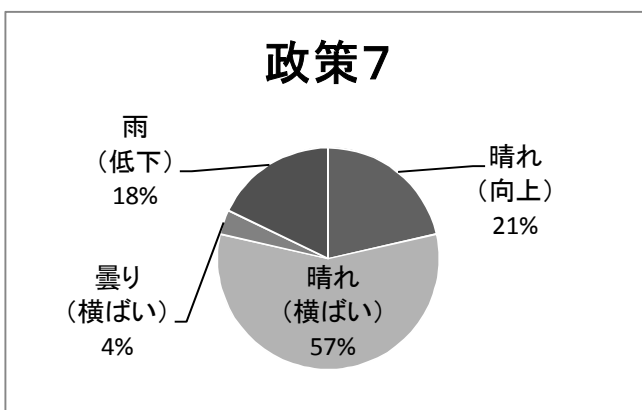
#### 政策5(集い つながり 活気あふれるまち)

- 成果が向上している主な基本事業等
  - ・農業生産組織数(累計)
  - ・ほ場整備面積(累計)
  - ・津波復興拠点の立地面積率(さんみらい多賀城・復興団地)
  - ・観光しやすいまちへの整備件数(累計)
- 成果が低下している主な基本事業等
  - ・観光協会のホームページアクセス数



#### 政策6(心がかよう地域の絆を育むまち)

- 成果が向上している主な基本事業等
  - ・自治会・町内会加入率
  - ・安全性や利便性が改善された活動拠点数(累計)
  - ・多様な主体(他の町内会、NPO、企業等)との広域連携等により地域課題解決に取り組み、効果が現れた自治会・町内会の数
- 成果が低下している主な基本事業等
  - ・なし



#### 政策7(理解と信頼で進める自律したまち)

- 成果が向上している主な基本事業等
  - ・工事成績調書の評価点数が75点以上の割合
  - ・基礎的財政収支(プライマリーバランス)
  - ・市税等の収納率
- 成果が低下している主な基本事業等
  - ・情報漏えい事件数
  - ・自分の課で業務の引継ぎ、異動者の早期戦力化の仕組みができていると思う職員割合
  - ・計画的な修繕の達成率

※グラフについては、未設定等を除きます。

#### (4) 成果指標全体の目標達成度(施策・基本事業別)

成果指標の平成29年度指標値の平成32年度目標値への目標達成度を、「達成(目標値を達成している)」、「高(目標年度よりも前に目標値を達成する可能性が高いもの)」、「中(目標年度に目標値を達成する可能性が高いもの)」、「低(目標年度に目標値を達成することが難しいもの)」の4段階の区分で表しています【19ページの達成度参照】。

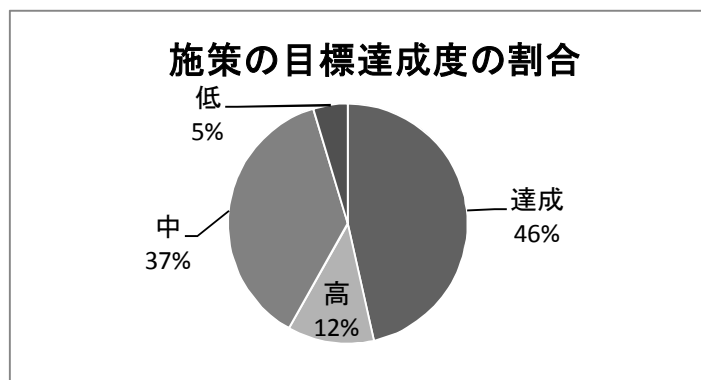
施策と基本事業の「目標達成度」の状況は、下図のとおりとなっています。施策では「達成」が全体比率の46%で最も多く、次いで「中」が37%、「高」が12%、「低」が5%となっています。

また、基本事業については、「達成」が全体比率の49%と最も多く、次いで「中」が29%、「低」が13%、「高」が9%となっています。

※成果指標は、毎年取得するため、平成29年度時点の達成度が、「達成」の場合でも、翌年度以降変動する場合があります。

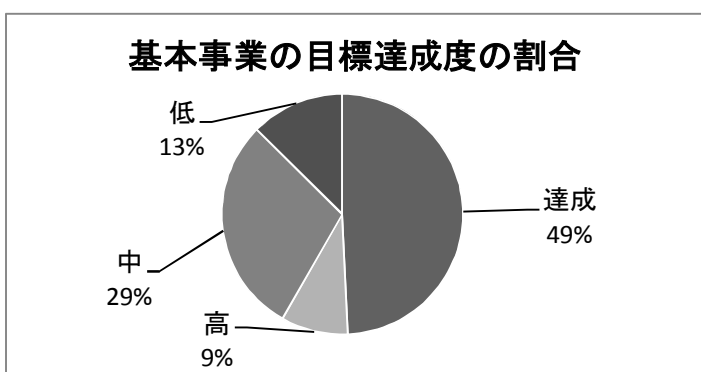
##### ① 施策数、成果指標数及び目標達成度の割合等

施策数	32
成果指標数	48
(内訳)	
達成	20
高	5
中	16
低	2
未設定等	5



##### ② 基本事業数、成果指標数及び目標達成度の割合等

基本事業数	112
成果指標数	227
(内訳)	
達成	98
高	18
中	58
低	25
未設定等	28



※グラフについては、未設定等を除きます。

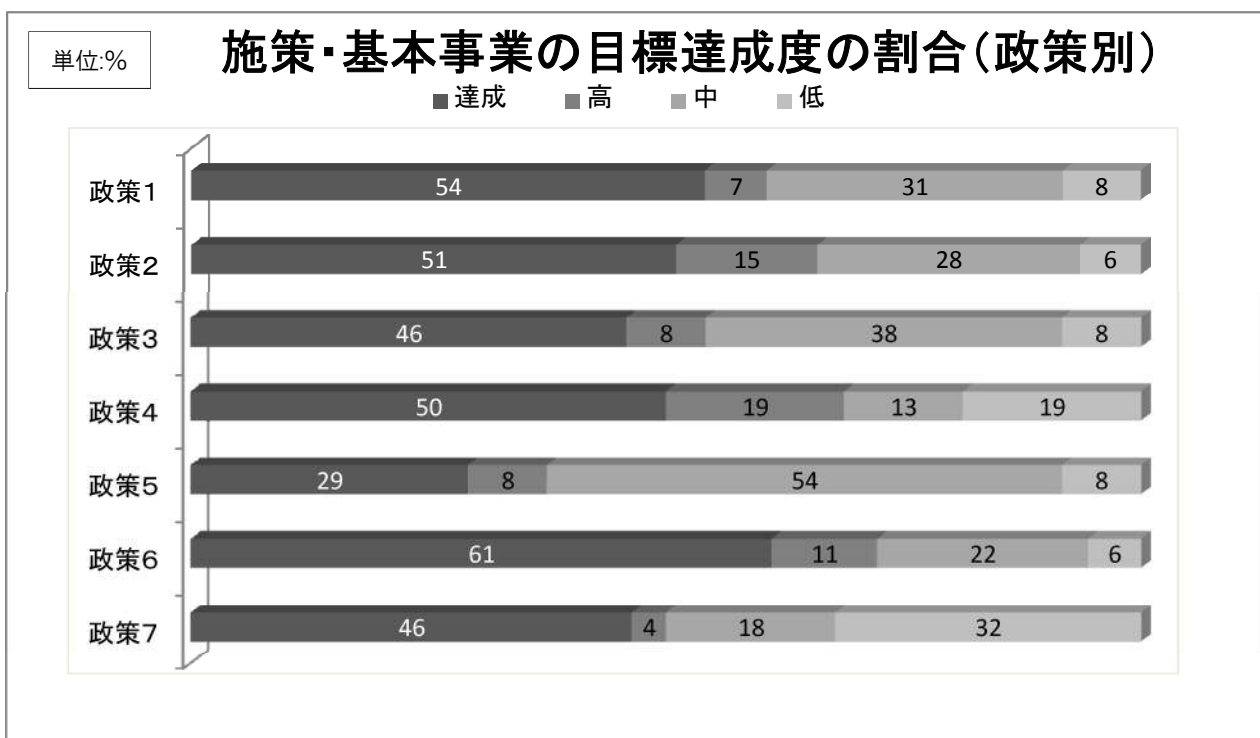
## (5) 政策別の成果指標全体の目標達成度(施策・基本事業合計)

### ① 全体の傾向

施策と基本事業の成果指標を「政策」ごとにまとめた政策別の目標達成度の状況は下表のとおりとなっています。政策ごとに指標数や指標の性質等は異なりますが、「達成」及び「高」の指標割合が多い政策は、政策6「心がかよう地域の絆を育むまち」、政策4「環境を大切にする心を育むまち」の順となっています。

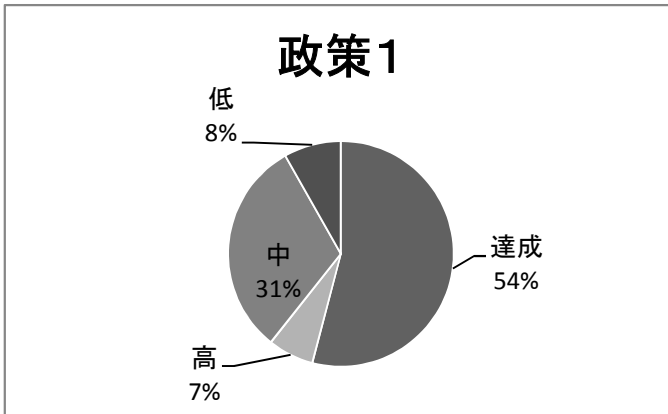
### ◎施策・基本事業の成果指標数及び目標達成度(政策別)

	達成	高	中	低	未設定等	計
政策1	33	4	19	5	2	63
政策2	24	7	13	3	17	64
政策3	22	4	18	4	2	50
政策4	8	3	2	3	1	17
政策5	7	2	13	2	5	29
政策6	11	2	4	1	0	18
政策7	13	1	5	9	6	34
全体	118	23	74	27	33	275



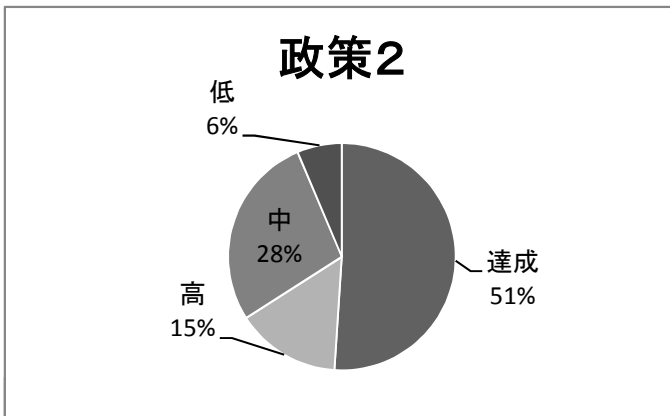
※グラフについては、未設定等を除きます。

## ② 政策別の傾向



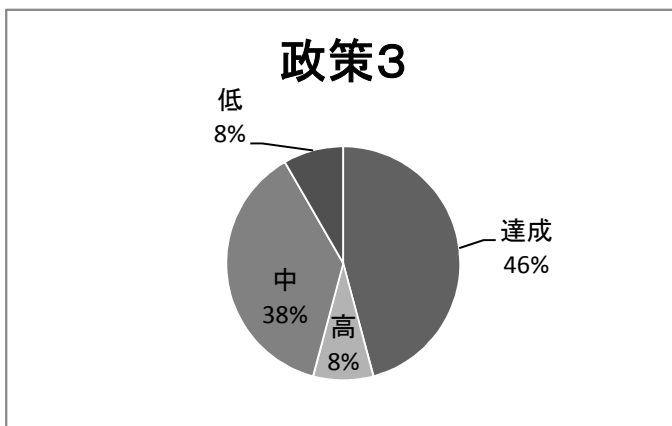
### 政策1(安全で快適に暮らせるまち)

- 成果を達成している主な基本事業等
- ・災害時に地域で助け合いができると思う市民割合
- ・良好な都市景観が創出・維持されていると思う市民割合
- ・使いやすく、憩える公園があると思う市民割合
- ・多賀城駅や駅周辺施設が利用しやすいと思う市民割合
- ・有収率



### 政策2(元気で健やかに暮らせるまち)

- 成果を達成している主な基本事業等
- ・1年に1回健康診断を受けている市民割合
- ・乳幼児健診の平均受診率
- ・地域型保育事業の数
- ・適切な療育サービスが受けられていると思う保護者割合



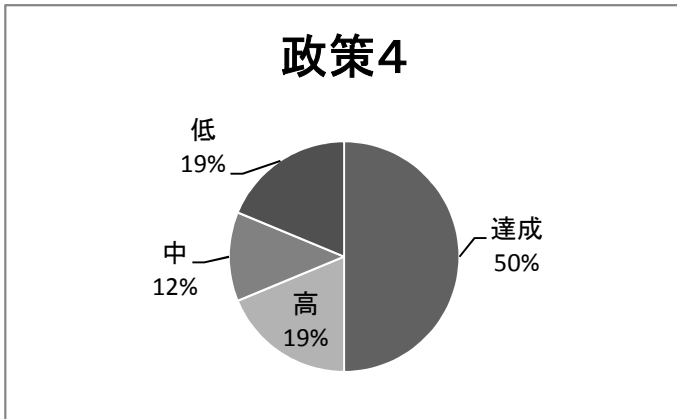
### 政策3

#### (歴史・文化を継承し豊かな心を育むまち)

- 成果を達成している基本事業等
- ・学校支援事業件数
- ・多賀城の歴史・文化・まちについて学ぶ小学校3年生以上の授業数
- ・授業がわかると答える児童・生徒割合
- ・講座・教室メニュー数
- ・スポーツ施設等の利用者数
- ・市内所在の文化財訪問者数

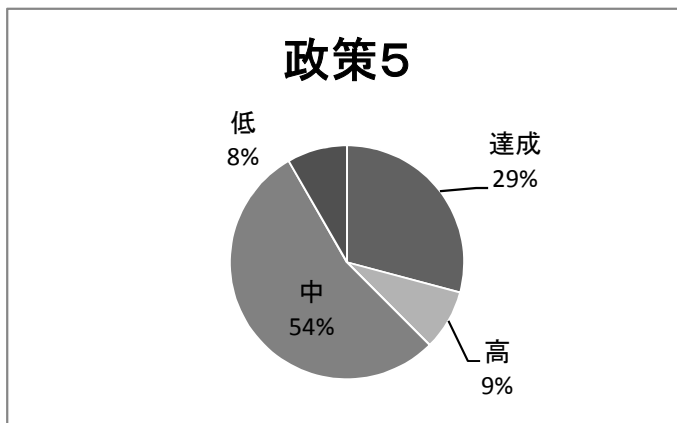
※グラフについては、未設定等を除きます。





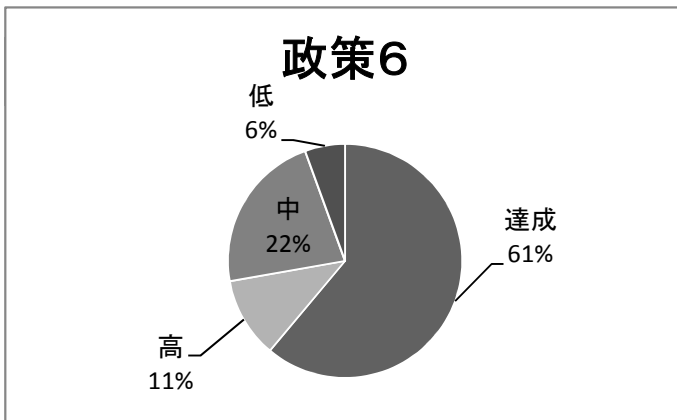
#### 政策4(環境を大切にすることを育むまち)

- 成果を達成している主な基本事業等
  - ・市が開催した地球温暖化防止に向けた取組や環境事業の参加者数
  - ・生活公害苦情件数
  - ・河川の水質基準の達成割合
  - ・市民1人当たり年間可燃ごみ排出量(家庭ごみ)



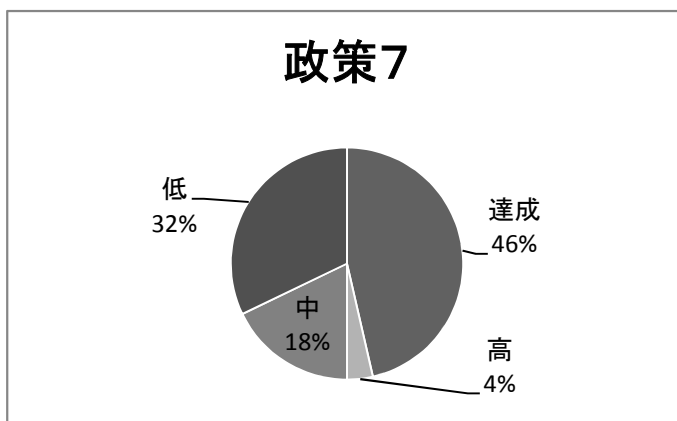
#### 政策5(集い つながり 活気あふれるまち)

- 成果を達成している主な基本事業等
  - ・担い手農業者数
  - ・観光関連情報のマスメディアの掲出件数
  - ・主体的に誘客イベントを行っている団体数
  - ・観光しやすいまちへの整備件数(累計)



#### 政策6(心がかよう地域の絆を育むまち)

- 成果を達成している主な基本事業等
  - ・自治会・町内会加入率
  - ・安全性や利便性が改善された活動拠点数(累計)
  - ・市民活動に参画したいと思う市民割合
  - ・市政に対する市民の意見・声を伝える場や機会に満足している市民割合



#### 政策7(理解と信頼で進める自律したまち)

- 成果を達成している主な基本事業等
  - ・行政評価の考え方を意識して事業を推進している職員割合
  - ・基礎的財政収支(プライマリーバランス)
  - ・市税等の収納率

※グラフについては、未設定等を除きます。

## (6) まちづくりアンケートの結果

### ①まちづくりアンケートの実施方法等

まちづくりアンケートは、総合計画の施策や基本事業に設定している成果指標の進捗状況を調査するとともに、各施策に対する市民ニーズ(満足度、重要度)の状況を調査し、これらを今後のまちづくりに生かしていくことを目的として、毎年度実施しています。

#### ◎平成29年度実施状況

アンケート発送日	平成30年2月1日
アンケート発送数	3,000通
調査対象者数	2,963人
有効回収数	1,578人
回収率	53.3%

### ②市民の満足度と重要度

ここでは、アンケートにより把握した32の施策に対する市民満足度と重要度の状況を5点満点で点数化し、後期基本計画の基準値である平成26年度と平成29年度の数値を比較をしています。

#### (ア)市民の満足度と重要度

満足度	
・満足	5点
・どちらかといえば満足	4点
・普通	3点
・どちらかといえば不満	2点
・不満	1点

重要度	
・力を入れてほしい	5点
・できれば力を入れてほしい	4点
・今のままでよい	3点
・あまり力を入れる必要はない	2点
・力を入れる必要はない	1点

政策・施策分野	満足度			重要度		
	平成26年度 A	平成29年度 B	対26年度比 C(B-A)	平成26年度 D	平成29年度 E	対26年度比 F(E-D)
1-1 災害対策の推進	3.00	3.14	0.14	4.07	3.92	△ 0.15
1-2 防犯対策の推進	2.88	3.02	0.14	3.96	3.84	△ 0.12
1-3 安全な消費生活の確保	2.98	3.07	0.09	3.64	3.55	△ 0.09
1-4 交通安全対策の推進	2.95	3.00	0.05	3.77	3.73	△ 0.04
1-5 交通環境の充実	2.83	2.92	0.09	3.79	3.72	△ 0.07
1-6 市域の整備	2.86	2.96	0.10	3.68	3.60	△ 0.08
1-7 中心市街地の整備	2.79	3.06	0.27	3.69	3.53	△ 0.16
1-8 安全で安定した水の供給	3.27	3.42	0.15	3.54	3.44	△ 0.10
2-1 地域福祉の推進	2.96	3.06	0.10	3.64	3.57	△ 0.07
2-2 健康づくりの推進	3.08	3.12	0.04	3.50	3.46	△ 0.04
2-3 子育て支援の充実	2.86	2.96	0.10	3.85	3.76	△ 0.09
2-4 高齢者福祉の推進	2.84	2.92	0.08	3.84	3.77	△ 0.07
2-5 障害者(児)福祉の推進	2.89	2.93	0.04	3.74	3.71	△ 0.03
2-6 社会保障等の充実	2.81	2.88	0.07	3.80	3.70	△ 0.10

政策・施策分野		満足度			重要度		
		平成26年度 A	平成29年度 B	対26年度比 C(B-A)	平成26年度 D	平成29年度 E	対26年度比 F(E-D)
3-1	学校・家庭・地域の連携による教育力の向上	2.89	2.94	0.05	3.70	3.67	△ 0.03
3-2	学校教育の充実	2.91	2.97	0.06	3.70	3.68	△ 0.02
3-3	生涯学習の推進	2.96	3.00	0.04	3.47	3.45	△ 0.02
3-4	市民スポーツ社会の推進	2.98	3.05	0.07	3.39	3.32	△ 0.07
3-5	文化財の保護と活用	3.17	3.18	0.01	3.40	3.37	△ 0.03
4-1	環境との共生	3.01	3.06	0.05	3.41	3.38	△ 0.03
4-2	生活環境の保全	3.00	3.05	0.05	3.48	3.45	△ 0.03
4-3	資源循環型社会の形成	2.97	3.04	0.07	3.46	3.41	△ 0.05
5-1	農業の振興	2.90	2.96	0.06	3.45	3.41	△ 0.04
5-2	商工業の振興	2.84	2.92	0.08	3.55	3.50	△ 0.05
5-3	企業誘致の推進	2.78	2.96	0.18	3.62	3.55	△ 0.07
5-4	観光の振興	2.72	2.77	0.05	3.70	3.68	△ 0.02
6-1	地域コミュニティの充実	2.90	2.95	0.05	3.49	3.45	△ 0.04
6-2	市民活動の充実	2.94	2.99	0.05	3.38	3.34	△ 0.04
6-3	開かれた市政の推進	2.83	2.90	0.07	3.56	3.50	△ 0.06
7-1	適正な事務の執行とサービスの提供	2.88	2.93	0.05	3.53	3.48	△ 0.05
7-2	組織・人事マネジメント	2.87	2.92	0.05	3.40	3.37	△ 0.03
7-3	効果的・効率的な行財政経営の推進	2.82	2.90	0.08	3.59	3.53	△ 0.06
	最大	3.27	3.42	0.15	4.07	3.92	△ 0.15
	最小	2.72	2.77	0.05	3.38	3.32	△ 0.06
	平均	2.92	3.00	0.08	3.62	3.56	△ 0.06

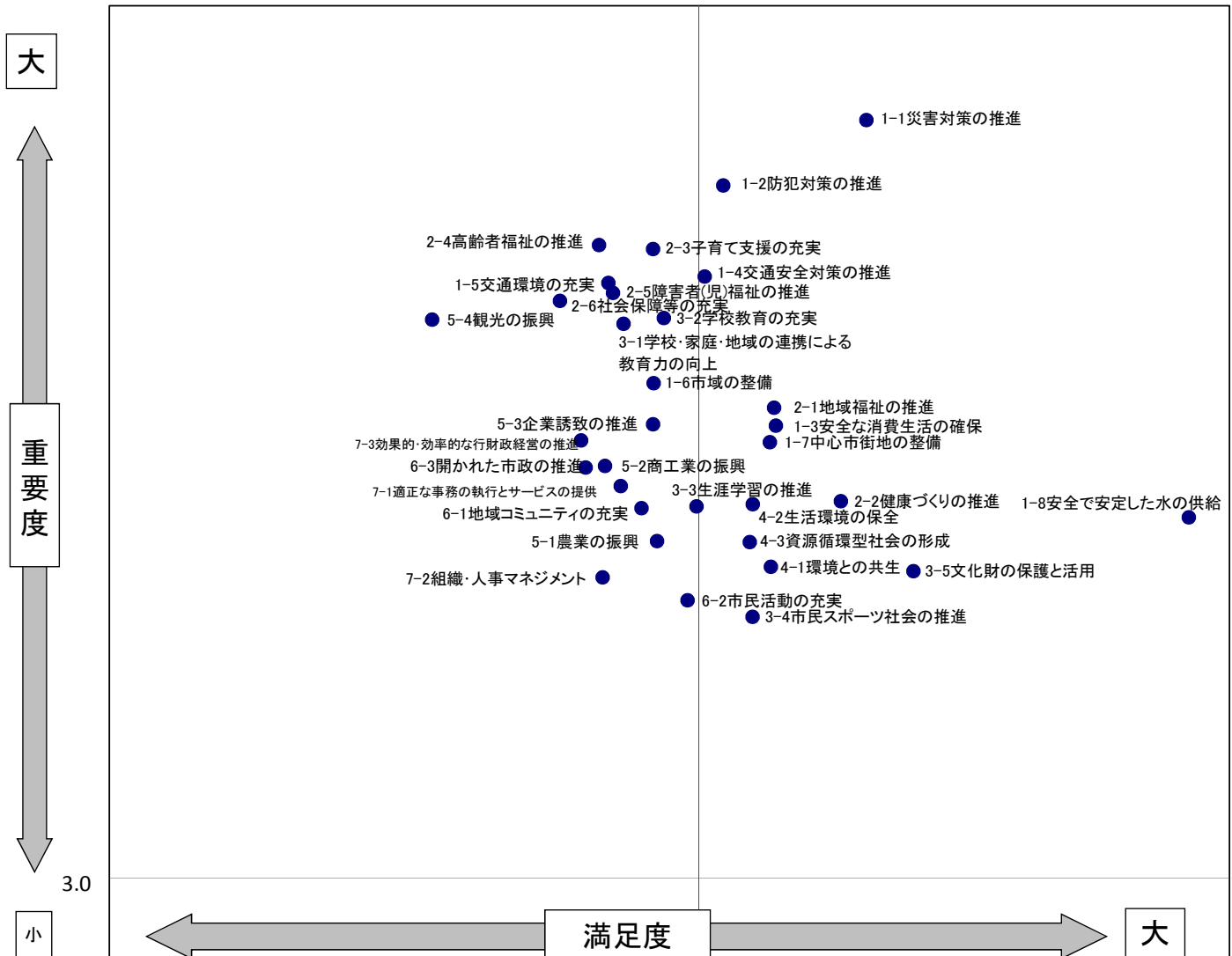
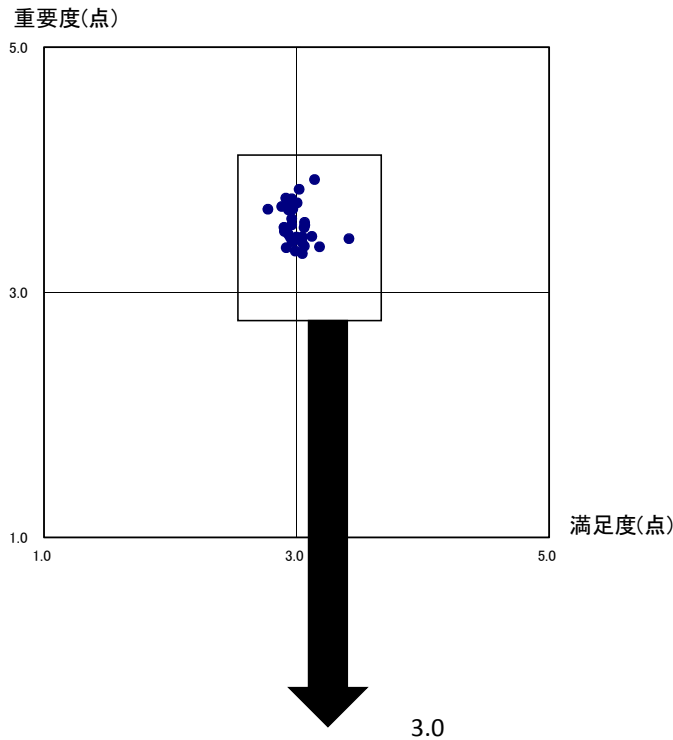
●満足度は上がると良い指標であり、重要度は下がると良い指標です。

●満足度が最も高い施策は、「1-8安全で安定した水の供給」で、次いで「3-5文化財の保護と活用」、「1-1災害対策の推進」となっています。一方で、満足度が最も低い施策は、「5-4観光の振興」で、次いで「2-6社会保障等の充実」、「6-3開かれた市政の推進」、「7-3効果的・効率的な行財政経営の推進」となっています。

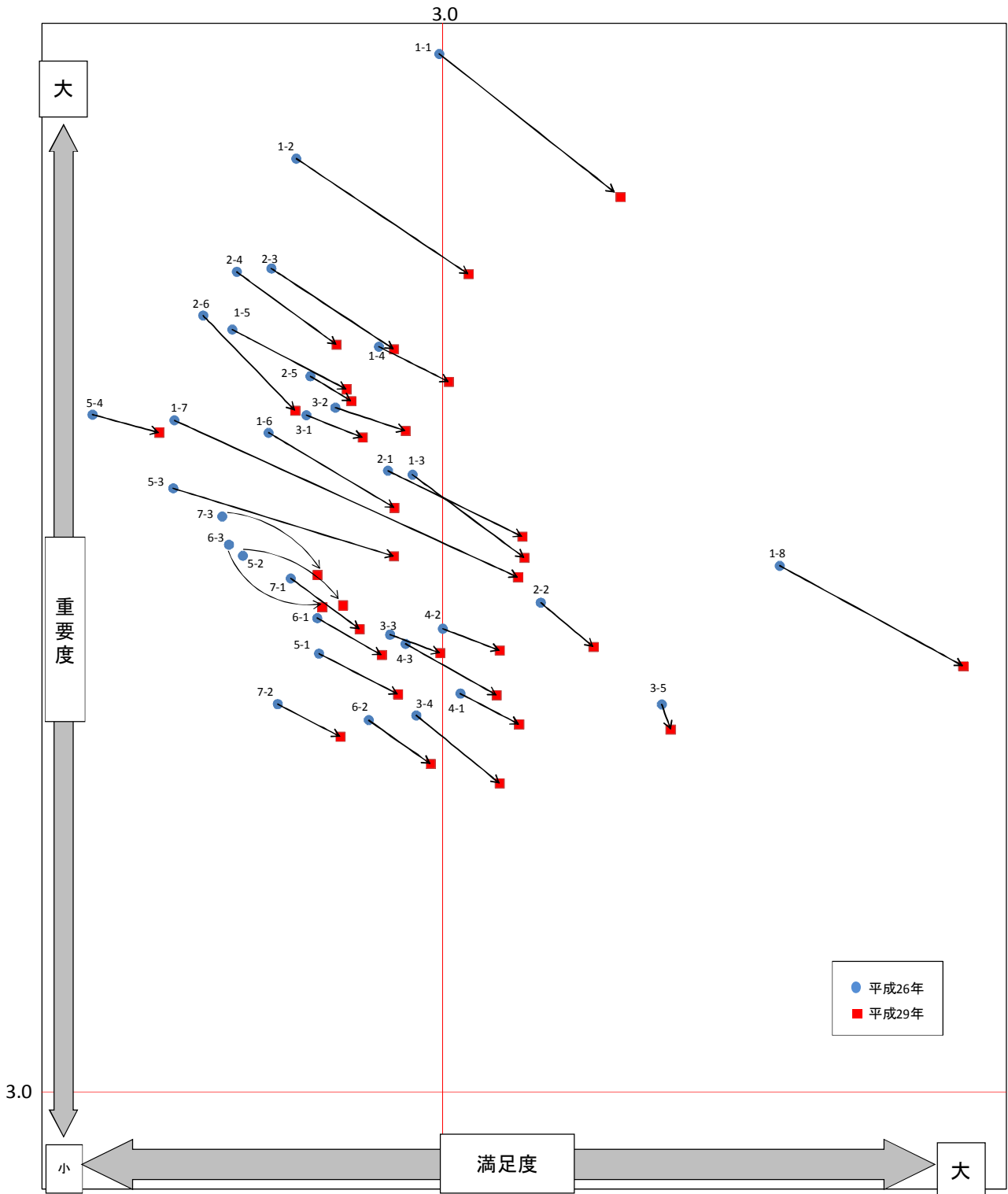
●重要度が最も高い施策は、「1-1災害対策の推進」で、次いで「1-2防犯対策の推進」、「2-3子育て支援の充実」、「2-4高齢者福祉の推進」となっています。重要度が最も低い施策は、「3-4市民スポーツ社会の推進」で、次いで「6-2市民活動の充実」、「3-5文化財の保護と活用」、「7-2組織・人事マネジメント」となっています。

## (イ)市民の満足度と重要度の分布

平成29年度の各施策に対する市民の満足度と重要度の状況をグラフで表しています。



平成26年度(後期基準値)と平成29年度(実績値)とを比較したグラフ



- 政策1
- 1-1 災害対策の推進
  - 1-2 防犯対策の推進
  - 1-3 安全な消費生活の確保
  - 1-4 交通安全対策の推進
  - 1-5 交通環境の充実
  - 1-6 市域の整備
  - 1-7 中心市街地の整備
  - 1-8 安全で安定した水の供給
- 政策2
- 2-1 地域福祉の推進
  - 2-2 健康づくりの推進
  - 2-3 子育て支援の充実
  - 2-4 高齢者福祉の推進
  - 2-5 障害者(児)福祉の推進
  - 2-6 社会保障等の充実

- 政策3
- 3-1 学校・家庭・地域の連携による教育力の向上
  - 3-2 学校教育の充実
  - 3-3 生涯学習の推進
  - 3-4 市民スポーツ社会の推進
  - 3-5 文化財の保護と活用
- 政策4
- 4-1 環境との共生
  - 4-2 生活環境の保全
  - 4-3 資源循環型社会の形成
- 政策5
- 5-1 農業の振興
  - 5-2 商工業の振興
  - 5-3 企業誘致の推進
  - 5-4 観光の振興

- 政策6
- 6-1 地域コミュニティの充実
  - 6-2 市民活動の充実
  - 6-3 開かれた市政の推進
- 政策7
- 7-1 適正な事務の執行とサービスの提供
  - 7-2 組織・人事マネジメント
  - 7-3 効果的・効率的な行財政経営の推進

## (7) (参考)統計の見方

### ①アンケートの配布票数及び有効票数について

統計学的には、対象となる範囲の方々の性別、年齢、職業、居住地などをバランスよく抽出しアンケート調査を行い、有効回答が概ね1,000票となれば、そのアンケート結果は、対象となる母集団の範囲の大小に係わらず、ほぼ変わらないとされています。この有効票数1,000票は、日本国民全体を対象とした場合でもサンプル数としては十分となることから、テレビの支持政党の電話アンケートなどの世論調査でも活用されています。

また、1,000票程度の有効票数が得られれば、違う人を対象に、同じアンケート調査を100回行った場合でも、そのうち95回は、ほぼ同じ結果が得られるとされています。そのため、傾向を判断する場合には、適切な手法ということとなります。ただし、アンケート結果がほぼ同数で回答が分かれるような内容の場合は、統計誤差の関係から、傾向の判断が難しい場合があります。

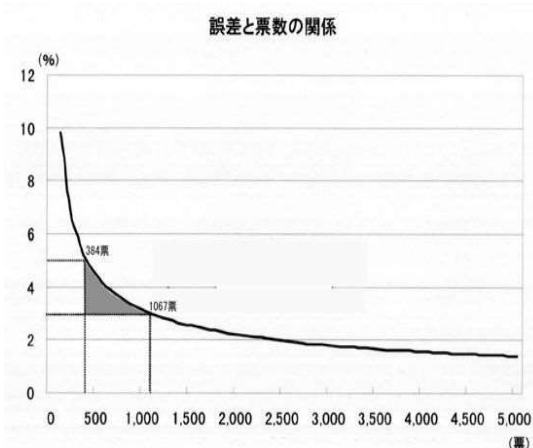
よって、今回実施した「多賀城市まちづくりアンケート」においても、概ね1,000票の有効回答を目標に、これまで多賀城市で実施したアンケート調査結果などから回収率を約33%と想定し、配布数(対象者数)を3,000票としました。

### ②アンケートの回収票の信頼性

アンケート票数と誤差との関係は、当然アンケート票数が少ないと誤差は大きく、アンケート票数が多いと誤差は少なくなります。しかしその関係は一定ではなく、富士山の稜線のカーブのような関係にあります。【下図参照】

つまり、票数が少ない時は票数を少し増やすことにより誤差が大幅に減少しますが、ある一定の数を超えると、票数を大幅に増やしても誤差はほとんど変わらなくなります。統計学的には、この「一定の数」は、目標誤差:3~5%以内であれば良いとされており、それを下記の計算式で逆算すると概ね400~1,100票程度であることが算出されています。

よって、有効回答票の回収数がこの程度あれば、住民意向の把握として十分信頼性の高い数字になると言えます。



【上記は3%~5%の範囲を示しています。】

#### 《参考》

サンプル数(アンケートの有効回答票数)と誤差との関係式

必要なサンプル数

$$= (\text{有意水準}^2 \times P(1-P)) \div \text{目標誤差}^2$$

有意水準: 統計学の「正規分布表」から有意水準5%の定数(=1.96)

P: 誤差が一番大きくなるのは50%のときなので0.5

目標誤差: 3~5%以内であれば良いとされている

### ③回収票数と誤差

実施の結果として仮に1,000票の回答があったとすると、上記の式に入れて逆算すると、誤差は3.1%となります。これは、例えば違う人を対象にして、今回と同じ調査を複数回実施しても、結果の%の値が±3.1ポイント以内でしか変わらないということです。

このことから、まちづくり報告書においては、異なる年度との比較を行う際には、5.0ポイントまでの差については、統計誤差として処理することとしています。



### 3 施策・基本事業の動向(成果指標等一覧)

#### (1) 施策・基本事業評価の見方

政策 01 安全で快適に暮らせるまち

施策 01 災害対策の推進

施策の成果状況は、左側のページとなるよう調整しています。

##### 施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
市民、行政区、事業者、行政	防災への取組によって、市民が安心して生活できます。

「対象」は施策や基本事業が働きかける対象(人やモノ)を示しています。  
 「意図」は施策や基本事業を展開することで「対象」をどのような状態にしたいのか、その目標とする姿を示しています。

##### 【指標の区分】

目指す姿の実現具合を測るものさしとして設定している成果指標は、その特性により次の3つに区分しています。

成果: 目指す姿の達成度を示すもの

社会: 事業状況を指標化したものの、行政の関与よりも社会経済情勢等の影響が大きいもの

代替: 成果の指標化が難しい場合に、代替指標として行政の活動量等を設定したもの

##### 【取得方法】

市民アンケート: 毎年定期的に市民3,000人を対象に行うアンケートにより取得する方法

職員アンケート: 毎年定期的に職員を対象に行うアンケートにより取得する方法

業務取得: 通常の業務内で取得する方法

課独自調査: この成果指標を取得するために各課等が行うアンケート等により取得する方法

##### 【指標特性】

上がると良い: 数値が上がると良い指標

下がると良い: 数値が下がると良い指標

その他: 数値の増減で良し悪しを判断できない指標

##### 【後期基準値】

平成26年度としています。

【担当課】平成30年度担当部署です。

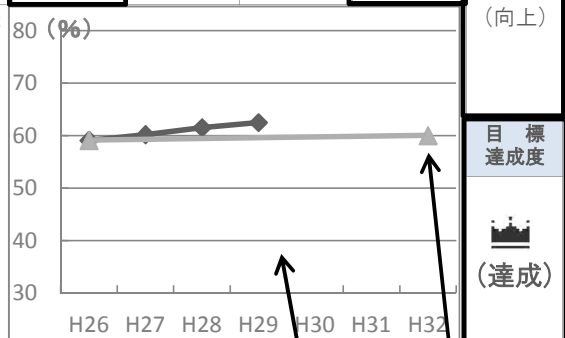
##### 施策の成果状況と評価

まち(市民、地域、行政)の防災に対する備えが整っていると思う市民割合

① 成果 市民アンケート 上がると良い 交通防災課

単位	基準値(H26)	実績値(H28)	実績値(H29)	目標値(H32)	指標のうごき
%	59.1	61.5	62.5	▲	☀️ (向上)

【状況】平成29年度は62.5%で、平成28年度より1.0ポイント、後期基準値より3.4ポイント増加しており、順調です。  
 【原因】東日本大震災後の速やかな災害復旧や防災行政無線の整備、総合治水対策の推進、津波避難ビル等の支援協定締結、災害用備蓄品の整備など行政の取組が認知されていることに加え、地域の自主防災組織が充実し、平成25年度から毎年実施している総合防災訓練への参加などが、市民の安心感向上につながったものと考えられます。



##### 【評価】

「(状況)」は、指標値の増減、指標のうごき、目標達成度に関する評価を記載しています。

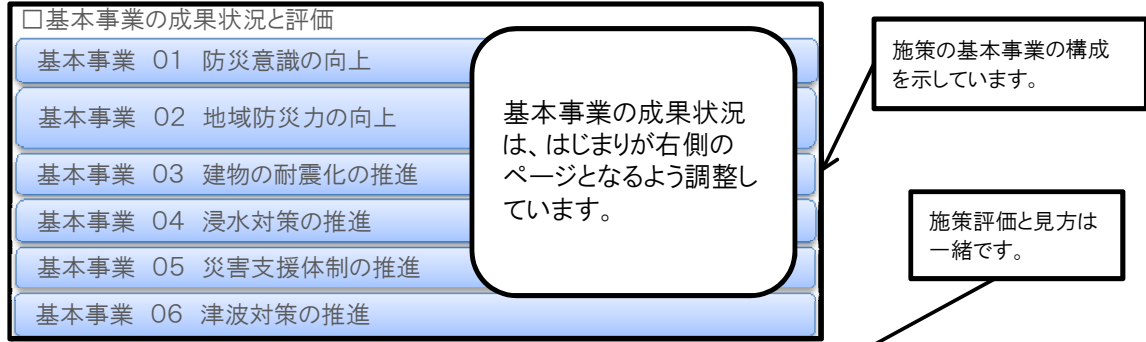
「(原因)」は、状況に対する原因分析の内容を記載しています。

◆は、各年度ごとの実績値です。指標の実績値の推移をグラフで示しています。

▲は、平成32年度の目標値を示しており、グラフ上の最も過去の実績値から目標値への方向性をラインで示しています。

【掲載している施策・基本事業は、掲載例です。実際の内容とは異なります。】





基本事業01 防災意識の向上  
災害への備えをしている世帯割合

指標	①	成果	市民アンケート	上がると良い	交通防災課	単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標のうごき
						%	54.7	51.7	52.4	→	
評価		(状況)平成29年度は52.4%で、平成28年度より0.7ポイント増加しましたが、後期基準値より2.3ポイント減少しています。 (原因)20歳代において、他の年齢層に比べ防災訓練への参加や非常用食品を備蓄している割合が低いことが、要因の1つです。									(横ばい) 目標達成度  (中)

基本事業02 地域防災力の向上  
災害時に地域で助け合いができると思う市民割合

指標	①	成果	市民アンケート	上がると良い	交通防災課	単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標のうごき
						%	61.6	65.1	66	→	
評価		(状況)平成29年度は66.0%で、平成28年度より0.9ポイント、後期基準値より4.4ポイント増加しています。 (原因)男女別、年齢別、地域別全てにおいて増加傾向にあり、特に30~40歳代と75歳以上が高い数値となっています。日頃から交流があった子育て世代や高齢者同士が、震災時に助け合ったり、励ましあったりした実体験などが成果を向上させた大きな要因と考えられます。また、平成26年度から市内小中学校が、総合防災訓練に参加していることも要因の1つと考えられます。									(向上) 目標達成度  (達成)

**【目標値】**  
 目標値は、次の3つのパターンで表わしています。  
 数値：業務データから現状値を把握するもの  
 矢印：目標値を数値で表しにくいもの(アンケートによる把握等)と現状維持のもの  
 ※アンケートについては、統計誤差の関係があるため、方向性を矢印で表し、数値で目標を設定していません。  
 - :社会・経済情勢等の影響が大きい社会指標や目標設定がなじまない代替指標としているもの

**【指標のうごき】**  
 後期基準値(又は取得初年度)と比較した際の平成29年度の成果指標のうごきを、次の区分により示しています。  
 なお、アンケートから数値を取得しているものは、一定の統計誤差を考慮しています。  
 ☀(向上)：数値(成果)が後期基準値(又は取得初年度)より向上しているもの  
 ☁(横ばい)：数値(成果)が後期基準値(又は取得初年度)に比べ横ばい(微向上)又は横ばいであることが望ましいもの  
 ☁(横ばい)：数値(成果)が後期基準値(又は取得初年度)に比べ横ばい(微低下)であるもの  
 ☁(低下)：数値(成果)が後期基準値(又は取得初年度)に比べ低下しているもの  
 - :平成29年度に実績値がないもの、平成26~28年度の実績値がないもの又は指標特性が「その他」のもの

**【目標達成度】**  
 成果指標の平成32年度の後期目標値への達成度合いを示しています。  
 🏰(達成)：目標値を既に達成しているもの  
 📊(高)：目標年度前に目標値を達成する可能性が高いもの  
 📊(中)：目標年度で目標値を達成する可能性が高いもの  
 📊(低)：目標年度で目標値を達成することが難しいもの  
 - :目標値がないもの又は指標特性が「その他」のもの



# 政策1

安全で快適に暮らせるまち

＜安全・快適分野＞

---

**政策 01 安全で快適に暮らせるまち**

**施策 01 災害対策の推進**

**施策のプロフィール**

施策の対象	施策の意図
市民、行政区、事業者、行政	防災への取組によって、市民が安心して生活できます。

**施策の成果状況と評価**

指標 ①	まち（市民、地域、行政）の防災に対する備えが整っていると 思う市民割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	交通防災課	%	59.1	61.5	62.5	→
評価	<p>（状況）平成29年度は62.5%で、平成28年度より1.0ポイント、後期基準値より3.4ポイント増加しており、順調です。</p> <p>（原因）東日本大震災後の速やかな災害復旧や防災行政無線の整備、総合治水対策の推進、津波避難ビル等の支援協定締結、災害用備蓄品の整備など行政の取組が認知されていることに加え、地域の自主防災組織が充実し、平成25年度から毎年実施している総合防災訓練への参加などが、市民の安心感向上につながったものと考えられます。</p>							目標 達成度 👑 (達成)	

□基本事業の成果状況と評価

- 基本事業 01 防災意識の向上
- 基本事業 02 地域防災力の向上
- 基本事業 03 建物の耐震化の推進
- 基本事業 04 浸水対策の推進
- 基本事業 05 災害支援体制の推進
- 基本事業 06 津波対策の推進

基本事業01 防災意識の向上

指標	災害への備えをしている世帯割合	単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき
①	成果 市民アンケート 上がると良い 交通防災課	%	54.7	51.7	52.4	→	
評価	<p>(状況) 平成29年度は52.4%で、平成28年度より0.7ポイント増加しましたが、後期基準値より2.3ポイント減少しています。</p> <p>(原因) 20歳代において、他の年齢層に比べ防災訓練への参加や非常用食品を備蓄している割合が低いことが、要因の1つです。</p>						<p>☁ (横ばい)</p> <p>目 標 達 成 度</p> <p>■ (中)</p>

基本事業02 地域防災力の向上

指標	災害時に地域で助け合いができると思う市民割合	単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき
①	成果 市民アンケート 上がると良い 交通防災課	%	61.6	65.1	66	→	
評価	<p>(状況) 平成29年度は66.0%で、平成28年度より0.9ポイント、後期基準値より4.4ポイント増加しています。</p> <p>(原因) 男女別、年齢別、地域別全てにおいて増加傾向にあり、特に30～40歳代と75歳以上が高い数値となっています。日頃から交流があった子育て世代や高齢者同士が、震災時に助け合ったり、励ましあったりした実体験などが成果を向上させた大きな要因と考えられます。また、平成26年度から市内小中学校が、総合防災訓練に参加していることも要因の1つと考えられます。</p>						<p>☀ (横ばい)</p> <p>目 標 達 成 度</p> <p>🏰 (達成)</p>

基本事業02 地域防災力の向上

指標	自主防災組織率	単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき
②	成果 業務取得 上がると良い 交通防災課	%	100	100	100	100	
評価	<p>(状況) 平成29年度も100%で、後期目標値を達成しています。</p> <p>(原因) 震災の影響により、自助、共助、公助の役割が広く理解され、地域全体が自主防災組織の必要性を強く感じたことが要因と考えられます。</p>						<p>☀ (横ばい)</p> <p>目 標 達 成 度</p> <p>🏰 (達成)</p>

基本事業02 地域防災力の向上

指標	より実践的な防災の取組を実施している地域割合	単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき
③	成果 業務取得 上がると良い 交通防災課	%	—	—	59.6	→	
評価	<p>平成29年度から指標の取り方を変更しています。</p> <p>(状況) 平成29年度は59.6%で、47行政区の内、①防災訓練の実施、②防災講座等の開催、③防災計画の作成、④備蓄品等の確認、⑤要援護者を対象とした訓練の実施の5項目のうち4項目以上を実践している行政区が28地区となっています。</p> <p>(原因) 5項目のうち、②の防災講座等の開催が少ないことが要因です。震災後各地区で実施していた防災出前講座等の開催が一段落し、開催する行政区が減ってきています。</p>						<p>---</p> <p>目 標 達 成 度</p> <p>---</p>

□基本事業の成果状況と評価

基本事業02 地域防災力の向上

指標④	消防団充足率			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標のうごき	
	成果	業務取得	上がると良い	交通防災課	%	90	90	87	95	
評価	消防団の定員は、200人です。			(状況) 平成29年度は87.0%(174人)で、平成28年度及び後期基準値より3.0ポイント減少しておりますが、高い状態で推移しています。 (原因) 消防団員が高齢化し、また、被雇用者の割合が年々増加しており、体力的な問題、仕事の多忙等を理由に退団する団員が増加していることが、基準値より減少している要因です。後期目標値は達成していないものの、各分団による積極的な新入団員の勧誘活動により、近年は比較的若い年齢の入団者も増加しています。						

基本事業03 建物の耐震化の推進

指標①	市有建築物の耐震化率			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標のうごき	
	成果	業務取得	上がると良い	管財課	%	96.9	98	98	100	
評価	対象となる市有建築物は、101棟です。			(状況) 平成29年度は98.0%で、後期基準値及び平成28年度と比較して横ばいとなっています。 (原因) 未改修施設は市役所東庁舎と旧図書館の2施設です。市役所東庁舎については、平成30年3月策定の多賀城市庁舎整備基本計画に基づき平成32年度改修着手を目標としています。旧図書館については、庁舎改修中の代替倉庫として活用しており、庁舎全体改修完了後の用途が確定した後に、用途に合わせた耐震化の必要性を検討していきます。このため、平成32年度までの後期目標達成は、困難です。						

基本事業03 建物の耐震化の推進

指標②	耐震化を実施した世帯 (累計)			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標のうごき	
	代替	業務取得	上がると良い	都市計画課	世帯	84	87	90	120	
評価	目標値は平成32年度までの累計(実績値も同様の考え方)			(状況) 平成29年度は90世帯で、平成28年度より3世帯増加、後期基準値より6世帯増加しています。 (原因) 一部の世帯にアンケート調査した結果等から、耐震化工事費の負担が経済的に困難であることや、東日本大震災においても倒壊しなかった事実により改修の意識が低いことなどが要因と考えられます。						

基本事業04 浸水対策の推進

指標①	下水道雨水面的整備率			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標のうごき	
	成果	業務取得	上がると良い	下水道課	%	38.3	42.1	48.9	54	
評価				(状況) 平成29年度は48.9%で、平成28年度より6.8ポイント増加、後期基準値より10.6ポイント増加しています。 (原因) 平成29年度は7つの雨水幹線の整備を実施しました。宮内雨水幹線や高橋雨水幹線などが完成したことが要因です。						

□基本事業の成果状況と評価

基本事業05 災害支援体制の推進

指標①	防災情報送受信システムの不具合件数			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき
	成果	業務取得	下がると良い	交通防災課	件/年	0	0	0	0
評 価					(件/年)				
	(状況) 平成29年度も0件で、防災情報送受信システムの不具合はなく、後期目標値を達成しています。 (原因) 防災訓練時の使用確認及び定期的なメンテナンスを実施していることが要因と考えられます。								

基本事業05 災害支援体制の推進

指標②	災害用備蓄品の備蓄率			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき
	成果	業務取得	上がると良い	交通防災課	%	123.2	153.1	105.8	100
評 価	災害用備蓄品の必要数は、12,000人×2食×3日=72,000食です。 (状況) 平成29年度は105.8%で、平成28年度より47.3ポイント、後期基準値より17.4ポイント減少しておりますが、後期目標値を達成しています。 (原因) 震災時に頂いた大量の支援物資の賞味期限が平成29年度で切れたことが原因で平成28年度と比較し備蓄率が減少しましたが、保存年限が5年の備蓄食糧等を必要数量分計画的に整備しているため、目標を達成しています。				(%)				

基本事業05 災害支援体制の推進

指標③	消防水利設置率			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき
	成果	業務取得	上がると良い	交通防災課	%	96.5	100	100	100
評 価	(状況) 平成29年度も100%で、後期目標値を達成しています。 (原因) 定期的な巡視及び計画的なメンテナンスによる不具合の防止及び新たに開発等を行う事業者に対し、消防水利の基準に基づく設置指導を行っていることが要因です。				(%)				

基本事業05 災害支援体制の推進

指標④	災害時に職員として果たすべき役割や初動を理解している職員割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき
	成果	職員アンケート	上がると良い	交通防災課	%	94.4	98.3	98	→
評 価	(状況) 平成29年度は98.0%で、平成28年度より0.3ポイント減少、後期基準値より3.6ポイント増加しています。 (原因) 総合防災訓練を毎年開催し、地域、学校、関係機関と現地班が協力して訓練実施することで、それぞれの役割分担が明確になり、情報の共有が図れていること、また、担当課対応職員についてもBCP(事業継続計画)に基づく訓練を行っていることが要因と考えられます。				(%)				

□基本事業の成果状況と評価

基本事業06 津波対策の推進

指標 ①	津波防御施設の整備割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき
	代替	業務取得	上がると良い	都市計画課	%	28	57	67	100
評価	<p>(状況) 平成29年度は67.0%で、平成28年度より10.0ポイント増加、後期基準値より39.0ポイント増加しています。 (原因) 宮城県が実施している仙台港防潮堤(第1提)整備事業の用地交渉が難航していることが、大きな向上につながらない要因と考えられます。</p>							(向上) 目標達成度 ■■■ (中)	

基本事業06 津波対策の推進

指標 ②	避難道路の整備割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき
	成果	業務取得	上がると良い	復興建設課	%	0	33	33	100
評価	<p>(状況) 平成29年度は33.0%で、平成28年度から変化はありません。 (原因) 避難道路(2事業)については、用地買収及び道路・橋梁工事に取り組み、事業が着実に進捗しています。平成29年度は、事業が完了していないため実績値に変化はありません。</p>							(横ばい) 目標達成度 ■■■ (中)	

基本事業06 津波対策の推進

指標 ③	避難可能区域の割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき
	成果	業務取得	上がると良い	交通防災課	%	95	100	100	100
評価	<p>(状況) 避難可能区域(高台まで800m以内及び800m以遠の地域で津波避難ビルまで330mの範囲)内の世帯割合が、平成29年度は100%となっており、後期目標を達成しています。 (原因) 全ての世帯が高台等へ避難できるよう、平成29年度においても新たに1事業者と津波避難ビルの災害協定を締結するなど、避難箇所を設定していることが要因です。</p>							(横ばい) 目標達成度 ■■■ (達成)	






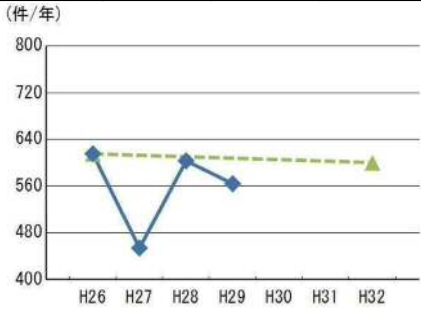

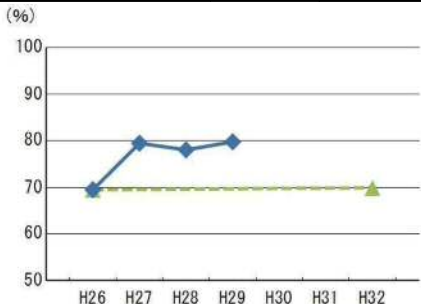
政策 01 安全で快適に暮らせるまち

施策 02 防犯対策の推進

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
市民、事業者、土地所有者等及び行政	犯罪にあわない、起こさせない地域社会がつけられています。

施策の成果状況と評価

指標 ①	刑法犯認知件数			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき
	成果	業務取得	下がると良い						
	交通防災課			件/年	615	603	564	600	 (向上)
	暦年での件数								
評価	(状況) 平成29年は564件で、後期基準値より51件、平成28年より39件減少し、後期目標値を達成しています。 (原因) 防犯カメラの設置や警察及び防犯関係団体等と連携・協力し、自転車施錠・防犯登録の推進、防犯パトロール等の継続的な対策が要因と考えられます。なお、窃盗犯424件が刑法犯認知件数の75.2%を占め、その主な内訳は、自転車盗116件、万引き83件、器物損壊60件となっています。減少傾向にあるものの、自転車盗は、各駅、各種店舗及びアパート駐輪場で、万引きは、各種店舗で多く発生しています。								
指標 ②	犯罪も少なく、安心して暮らせる地域になっていると思う市民割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い						
	交通防災課			%	69.6	78	79.7	→	 (向上)
評価	(状況) 平成29年度は79.7%で、後期基準値より10.1ポイント、平成28年度より1.7ポイント増加しました。 (原因) 性別、年齢別及び地区別の全ての区分で目標値を上回っています。市民、地域、事業所及び行政等で行った様々な防犯対策の取組が、要因と考えられます。地区別では、特に多賀城駅周辺地区が84%と高い数値であり、多賀城交番の移転や防犯カメラの設置等が市民の安心感の醸成につながっているものと考えられます。								

□基本事業の成果状況と評価

基本事業 01 地域が支えあう社会づくり

基本事業 02 都市を構成する施設の防犯機能の拡充

基本事業01 地域が支えあう社会づくり

指標①	防犯対策に取り組んでいる市民割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき	
	成果	市民アンケート	上がると良い							
				%	82.2	81.8	84.5	→		
評価	(状況) 平成29年度は84.5%で、後期基準値より2.3ポイント、平成28年度より2.7ポイント増加しています。 (原因) 市民アンケートでの防犯に取り組んでいる対策では、「家の戸締りを徹底している」の86.7%を筆頭に、「夜間の外出はなるべく控えている」、「防犯ブザーや携帯電話などを携帯している」の順となっています。「自らの安全は、自らが守る」という自助意識があらわれた結果が、要因と考えられます。									(横ばい) 目標達成度 (達成)

基本事業01 地域が支えあう社会づくり

指標②	防犯活動に取り組んでいる市民割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき	
	成果	市民アンケート	上がると良い							
				%	32.5	29.4	31.8	→		
評価	(状況) 平成29年度は31.8%で、後期基準値より0.7ポイント減少し、平成28年度より2.4ポイント増加しましたが、市民アンケートの指標であり、統計誤差の範囲です。 (原因) 防犯活動に全く参加していない割合は64.8%で、特に20歳～59歳の年齢層が多いことから、仕事や子育て等による活動参加への困難さが要因と考えられます。 なお、最も多く参加している活動は「声かけ、あいさつ運動」で21.9%であり、残りの活動については7%未満の参加率です。									(横ばい) 目標達成度 (中)

基本事業02 都市を構成する施設の防犯機能の拡充

指標①	夜間の防犯性を高める照明のLED電灯普及率			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき	
	代替	業務取得	上がると良い							
				%	18.5	26.1	45.7	30		
評価	(状況) 平成29年度は45.7%で、後期基準値より27.2ポイント、平成28年度より19.6ポイント増加となり、後期目標値を達成しています。 (原因) 自治会・町内会が防犯街路灯を設置、修繕、維持するための経費を市が補助していることや、道路照明灯をリース方式によりLED電灯に切り替えたことが要因です。									(向上) 目標達成度 (達成)

基本事業02 都市を構成する施設の防犯機能の拡充

指標②	防犯性を高める改善をした都市施設数(累計)			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき	
	代替	業務取得	上がると良い							
				件	27	16	58	150		
評価	目標値は平成28年度を初年度とする5年間の累計(実績値も同様の考え方) (状況) 平成29年度は42件で、累計58件となっています。後期目標値到達のために必要となる年平均30件を、やや下回っています。 (原因) 42件のうち32件が防犯街路灯の設置です。多くの都市施設において、防犯カメラの設置などによる防犯性向上が既に実施済みのため、大きな向上は困難な状況です。									(向上) 目標達成度 (中)

**政策 01 安全で快適に暮らせるまち**

**施策 03 安全な消費生活の確保**

**施策のプロフィール**

施策の対象	施策の意図
市民	市民が消費者トラブルにあうことなく生活しています。

**施策の成果状況と評価**

指標 ①	この1年間に消費者トラブルにあった市民割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	下がると良い	生活環境課	%	6.8	6.2	6.6	→
評価	<p>(状況) 平成29年度は6.6%で、平成28年度より0.4ポイント増加し、後期基準値より0.2ポイント減少しています。市民アンケート指標であり、統計誤差の範囲です。トラブルの種類では、電話勧誘販売、訪問販売、インターネット、携帯電話、アプリなどのトラブル、架空請求が上位を占めています。</p> <p>(原因) 消費生活相談窓口の周知や消費者講座、出前講座の開催、広報多賀城、市ホームページにより消費者トラブルから身を守るための情報を発信していますが、横ばいの状態となっています。</p>							目標 達成度  ■ (中)	

□基本事業の成果状況と評価

基本事業 01 消費生活相談の充実

基本事業 02 消費者啓発・教育の充実

基本事業01 消費生活相談の充実

指標 ①	消費者相談で解決策を提示した割合（他機関への紹介含む）			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき	
	成果	業務取得	上がると良い	生活環境課	%	100	100	100	100	
評価	(状況) 平成29年度も引き続き、解決策提示率が100%となっております。窓口及び電話での消費生活相談全てにおいて、解決策を提示しています(平成29年度相談件数：265件)。 (原因) 消費生活相談員が、問題解決のための研修会等に積極的に出席し、個々の相談解決スキル向上を図っていることが目標達成を維持している要因と考えられます。									(横ばい) 目標達成度 (達成)

基本事業02 消費者啓発・教育の充実

指標 ①	消費者トラブルに関する対応を知っている市民割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき	
	成果	市民アンケート	上がると良い	生活環境課	%	67.9	67.2	67	→	
評価	(状況) トラブルの解決方法を2つ以上知っている市民割合は、平成29年度は67.0%で、各年度と比較しても横ばいです。方法を1つも知らない市民割合は、平成29年度14.1%で、平成28年度の15.2%から1ポイント減少しており、85.9%の方は1つ以上の解決方法を知っています。 (原因) 相談窓口の案内や消費者講座、出前講座の開催、広報多賀城、市ホームページにより消費者トラブルから身を守るための情報を発信しております。消費者トラブルに関する対策は様々な相談方法があるため、場合に応じて解決方法の周知に努めます。									(横ばい) 目標達成度 (中)


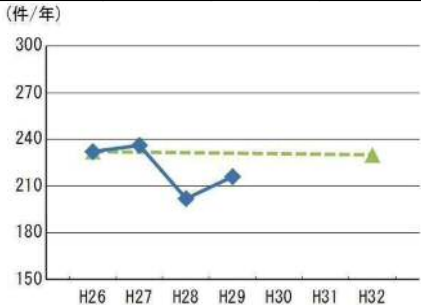
政策 01 安全で快適に暮らせるまち


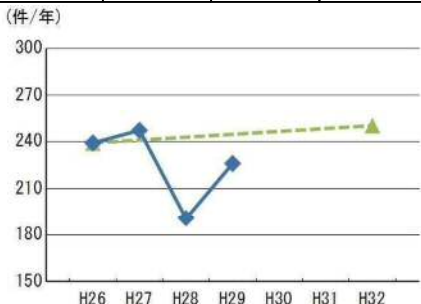
施策 04 交通安全対策の推進

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
市民、市域を通行する者	交通事故が減少しています。

施策の成果状況と評価

指標 ①	交通事故発生件数（人身事故）			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき
	成果	業務取得	下がると良い						
	交通防災課			件/年	232	202	216	230	 (向上)
	暦年での件数								
評 価	(状況) 平成29年は216件で、平成28年より14件増加しましたが、後期基準値より16件減少しており、後期目標値を達成しています。 (原因) 平成28年より微増ですが、過去10年間では、平成28年に次いで2番目に低い数値です。警察による取締りや交通関係団体等と連携した啓発活動による効果が要因と考えられます。				(件/年) 				

指標 ②	市民が第1当事者となった交通事故発生件数			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき
	成果	業務取得	下がると良い						
	交通防災課			件/年	239	191	226	250	 (向上)
	暦年での件数								
評 価	(状況) 平成29年は226件で、平成28年より35件増加、後期基準値より13件減少しています。また、事故の38%は市内で発生しています。 (原因) 年代別では、20歳代と50歳代が多く、違反別では、安全運転義務違反が9割以上を占め、安全不確認が最も多いです。平成28年より増加しましたが、過去10年間では、平成28年に次いで2番目に低い数値です。関係団体、警察等との連携による交通安全運動や飲酒運転根絶大会等の継続的な実施及び地域の啓発活動による効果が要因と考えられます。				(件/年) 				

□基本事業の成果状況と評価

基本事業 01 交通安全思想の普及・推進

基本事業 02 交通安全施設の整備

基本事業01 交通安全思想の普及・推進

指標 ①	交通安全思想の普及・推進			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い						
				%	83.2	86.3	85.9	→	
評 価	(状況) 平成29年度は85.9%で、平成28年度より0.4ポイント減少しましたが、後期基準値より2.7ポイント増加しています。 (原因) 交通安全関係団体、警察等と連携した普及啓発活動による効果が要因と考えられます。								(横ばい) 目標 達成度 (達成)

基本事業01 交通安全思想の普及・推進

指標 ②	交通安全啓発活動人数			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき
	成果	業務取得	上がると良い						
				人	7,004	9,386	9,067	→	
評 価	(状況) 平成29年度は9,067人で、平成28年度より319人減少していますが、後期基準値より2,063人増加しています。 (原因) 交通安全啓発事業として、交通安全関係団体、警察、市及び学校の連携のもと、春・秋の交通安全運動、飲酒運転根絶大会、交通安全教室等が行われ、各団体の連携意識が高まっていることが要因と考えられます。								(向上) 目標 達成度 (達成)

基本事業01 交通安全思想の普及・推進

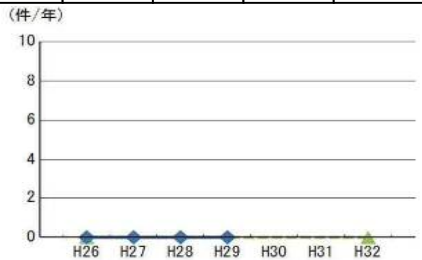
指標 ③	市民による飲酒運転事故発生件数			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき
	成果	業務取得	下がると良い						
				件/年	3	4	1	0	
評 価	(状況) 平成29年度は1件発生し、後期基準値より2件、平成28年度より3件減少しました。 (原因) 平成17年度市内で発生した痛ましい事故があって以来、飲酒運転の事故の件数は半減したものの、近年は横ばい状態が続いています。春・秋の交通安全運動や5月22日の飲酒運転根絶大会等において、街頭キャンペーン等の普及啓発活動を強化し、交通ルール遵守割合も向上しているものの、飲酒運転根絶には至っていない状態です。								(横ばい) 目標 達成度 (高)

基本事業02 交通安全施設の整備

指標 ①	交通安全施設整備件数(累計)			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき
	代替	業務取得	上がると良い						
				件	28	21	29	100	
評 価	目標値は平成28年度を初年度とする5年間の累計(実績値も同様の考え方)								(横ばい) 目標 達成度 (低)

□基本事業の成果状況と評価

基本事業02 交通安全施設の整備

指標 ②	交通安全施設維持管理上の不具合トラブル件数			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき
	成果	業務取得	下がると良い	道路公園課	件/年	0	0	0	0
評 価	(状況) 平成29年度も0件を維持し、後期目標値を達成しています。 (原因) 交通安全施設の点検等により、不具合箇所の早期発見及び早期対応処置等に努めています。また、定期的に道路パトロールや道路照明灯夜間パトロール等を実施し、交通安全施設によるトラブルを未然に防いでいることが要因と考えられます。								





政策 01 安全で快適に暮らせるまち

施策 05 交通環境の充実

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
市民、市管理道路・橋梁	利用しやすい道路や公共交通網が整備され、市民が快適に移動できます。

施策の成果状況と評価

指標	市内を円滑に移動できると思う市民割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い						
①				%	—	76.4	73.9	➔	☁ (横ばい)
評価	<p>(状況) 平成29年度は73.9%で、平成27年度より0.9%ポイント、平成28年度より2.5%ポイント減少しましたが、市民アンケートの指標で、統計誤差の範囲であり、横ばい状態になっています。 (原因) 都市計画道路の整備が進んでいるものの、市内のアクセス向上へとつながる(都)清水沢多賀城線及び(都)笠神八幡線の整備が未完了であることなどが横ばいの要因と考えられます。</p>								目標 達成度
									■ (中)
指標	市外に円滑に移動できると思う市民割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い						
②				%	—	83.4	84.2	➔	☁ (横ばい)
評価	<p>(状況) 平成29年度は84.2%で、平成28年度より0.8%ポイント増加しましたが、平成27年度より0.8%ポイント減少しています。市民アンケートの指標で、統計誤差の範囲であり、横ばい状態になっています。 (原因) 都市計画道路の整備が進んでいるものの、市外のアクセス向上へとつながる(都)清水沢多賀城線及び(都)笠神八幡線の整備が未完了であることなどが横ばいの要因と考えられます。</p>								目標 達成度
									■ (中)

□基本事業の成果状況と評価

基本事業 01 道路の整備

基本事業 02 道路の維持管理

基本事業 03 公共交通の充実

基本事業01 道路の整備

指標①	車道の利用に関して満足している市民割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	道路公園課	%	77.7	85.7	89.5	➔
評価	(状況) 平成29年度は89.5%で、平成28年度より3.8ポイント増加、後期基準値より11.8ポイント増加しています。 (原因) 多賀城駅周辺土地区画整理事業及び宮内地区復興土地区画整理事業の道路整備が完了し、市中心部へのアクセス性が向上したことが、増加の要因と考えられます。								(向上) 目標達成度 (達成)

基本事業01 道路の整備

指標②	都市計画道路整備延長（改良済み延長と概成済延長の合計）			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき
	代替	業務取得	上がると良い	都市計画課	km	34.82	35.67	36.18	38
評価	目標値は、5年間の累計(実績値も同様の考え方)								(横ばい) 目標達成度 (中)

基本事業01 道路の整備

指標③	歩道の利用に関して満足している市民割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	道路公園課	%	68.2	74.6	76.9	➔
評価	(状況) 平成29年度は76.9%で、平成28年度より2.3ポイント増加、後期基準値より8.7ポイント増加しています。 (原因) 多賀城駅周辺土地区画整理事業及び宮内地区復興土地区画整理事業の道路整備が完了し、市中心部へのアクセス性が向上したことが、要因と考えられます。								(向上) 目標達成度 (達成)

基本事業02 道路の維持管理

指標④	道路維持管理上の事故件数			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき
	成果	業務取得	下がると良い	道路公園課	件/年	0	0	1	0
評価	(状況) 平成29年度は、1件発生しています。 (原因) 定期的に道路パトロールを実施し、情報提供等により道路に関する異常の早期発見に努めていますが、強風による枝の落下による事故が発生したことが要因です。								(横ばい) 目標達成度 (中)

□基本事業の成果状況と評価

基本事業02 道路の維持管理

指標 ②	橋梁耐震化率			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき
	成果	業務取得	上がると良い	道路公園課	%	16.6	58.3	58.3	83.3
評価	<p>(状況) 平成29年度は58.3%で、後期基準値より41.7ポイント増加していますが、平成28年度から変化はありません。                  (原因) 東日本大震災復興交付金や社会資本整備総合交付金等の国庫支出金を活用し、着実に事業が進捗していることが、要因です。平成29年度は、工事が完了していないため実績値に変更はありません。</p>								(向上) 目標達成度 ■■■ (中)

基本事業03 公共交通の充実

指標 ①	主要施設までの移動手段がなく困っている市民割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	下がると良い	市長公室	%	19.4	16.9	18.9	→
評価	<p>(状況) 平成29年度は18.9%で、平成28年度より2.0ポイント増加していますが、後期基準値より0.5ポイント減少しており、横ばいです。市民アンケートの指標であり、統計誤差の範囲です。                  (原因) 平成28年5月に多賀城西部線が日曜日・祝日の運行を開始する等、公共交通の環境を改善していることが、要因と考えられます。一方で、年齢層別では、特に75歳以上の方の「困っている」割合が30%以上と高く、高齢化による影響もあり、大きな向上に繋がっていないと考えられます。</p>								(横ばい) 目標達成度 ■■■ (高)



政策 01 安全で快適に暮らせるまち

施策 06 市域の整備

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
市域	快適な街並みが整備されています。

施策の成果状況と評価

指標 ①	快適な街並みになっていると思う市民割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき																	
	成果	市民アンケート	上がると良い	都市計画課	%	74.1	78.8	79.6	→	☀ (向上)																
評価	<p>(状況) 平成29年度は79.6%で、平成28年度より0.8ポイント増加、後期基準値より5.5ポイント増加しています。</p> <p>(原因) 仙塩広域都市計画区域の整備、開発及び保全の方針に即し、多賀城市都市計画マスタープランに基づいて、まちづくりを進めているため、秩序ある都市の発展につながっていることが、要因と考えられます。</p>				<table border="1"> <caption>指標の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績値 (%)</th> <th>目標値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26</td> <td>74.1</td> <td>74.1</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>75.5</td> <td>74.1</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>78.8</td> <td>74.1</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>79.6</td> <td>74.1</td> </tr> <tr> <td>H32</td> <td>74.1</td> <td>74.1</td> </tr> </tbody> </table>			年度	実績値 (%)	目標値 (%)	H26	74.1	74.1	H27	75.5	74.1	H28	78.8	74.1	H29	79.6	74.1	H32	74.1	74.1	目標 達成度  👑 (達成)
年度	実績値 (%)	目標値 (%)																								
H26	74.1	74.1																								
H27	75.5	74.1																								
H28	78.8	74.1																								
H29	79.6	74.1																								
H32	74.1	74.1																								

□基本事業の成果状況と評価

基本事業 01 秩序ある都市計画の推進

基本事業 02 美しい都市景観の創出・維持

基本事業 03 安らぎと潤いのある公園整備

基本事業 04 都市緑化の推進

基本事業01 秩序ある都市計画の推進

指標①	市街地における地区計画設置数（累計）			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき	
	代替	業務取得	その他	都市計画課	地区	4	6	6	6	
評価	目標値は平成32年度までの累計(実績値も同様の考え方)			(地区)						目標 達成度
	<p>(状況) 地区計画設置数は後期基準値より2地区増加となり、平成29年度は6地区となっています。</p> <p>(原因) 平成27年度に宮内地区計画及び津波復興拠点地区計画を策定したことから、目標を達成しています。現在のところ、新たに地区計画を策定する予定はありません。</p>									

基本事業02 美しい都市景観の創出・維持

指標①	良好な都市景観が創出・維持されていると思う市民割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき	
	成果	市民アンケート	上がると良い	都市計画課	%	78.9	83.7	85.6	→	
評価	<p>(状況) 平成29年度は85.6%で、平成28年度より1.9ポイント増加、後期基準値より6.7ポイント増加しています。</p> <p>(原因) 用途地域による秩序ある良好な街並みの形成、街路樹や公園等の整備による緑の確保、地区計画や生垣助成による垣・柵の緑化の推進、市民による花のまちづくりの活動等を実施していることが要因と考えられます。</p>									<p>(向上)</p> <p>目標 達成度</p> <p>(達成)</p>

基本事業03 安らぎと潤いのある公園整備

指標①	使いやすく、憩える公園があると思う市民割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき	
	成果	市民アンケート	上がると良い	道路公園課	%	69	74.1	74.8	→	
評価	<p>(状況) 平成29年度は74.8%であり、平成28年度より0.7ポイント増加、後期基準値より5.8ポイント増加しています。</p> <p>(原因) 震災復興事業における公園の施設や樹木の復旧業務が完了し、年次計画的に施設の改修や樹木の維持管理を行ってきたことが要因と考えられます。</p>									<p>(向上)</p> <p>目標 達成度</p> <p>(達成)</p>

基本事業03 安らぎと潤いのある公園整備

指標②	市民と協働で管理している公園割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき	
	成果	業務取得	上がると良い	道路公園課	%	99.4	100	100	100	
評価	<p>(状況) 平成29年度は100%で、平成28年度に引き続き、後期目標値を達成しています。</p> <p>(原因) 平成29年度の公園数は168公園で、公園愛護団体数は169団体(南関合公園は2団体)となっています。公園利用の地域住民と協議や相談等を行い、公園愛護協力が途絶えないよう努力した結果と考えられます。</p>									<p>(横ばい)</p> <p>目標 達成度</p> <p>(達成)</p>

□基本事業の成果状況と評価

基本事業03 安らぎと潤いのある公園整備

指標 ③	公園施設、遊具等によるトラブル件数			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき
	成果	業務取得	下がると良い	道路公園課	件/年	0	0	0	0
評価	(状況) 平成29年度においても0件を維持しており、後期目標値を達成しています。 (原因) 安全基準に基づいた公園施設等の点検を定期的に行い、また毎年有資格者による公園遊具点検業務を実施して、危険遊具等のランクづけを行っています。危険度の高い遊具等の撤去や修繕等による事故の未然防止策を講じているため、トラブルがなかったものと考えています。								

基本事業04 都市緑化の推進

指標 ①	街路や住宅地に緑が十分にあると思う市民割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	都市計画課	%	76.3	78.6	80.5	→
評価	(状況) 平成29年度は80.5%で、平成28年度より1.9ポイント増加、後期基準値より4.2ポイント増加しています。 (原因) 開発行為や中高層建築物に関する緑の確保、地区計画による生垣の設置、また、生垣補助や花のまちづくりによる緑化などが都市緑化の推進につながっていると考えられます。								





政策 01 安全で快適に暮らせるまち

施策 07 中心市街地の整備

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
中心市街地（まちなか居住者、来街者、多賀城駅利用者、事業者）	商業と住環境が共存する魅力ある中心市街地になっています。 人が集まり、賑わいと活気のある中心市街地になっています。

施策の成果状況と評価

指標 ①	中心市街地居住者数			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき
	成果	業務取得	上がると良い						
			都市計画課	人	1,595	1,684	1,761	1,900	☀ (向上)
評価	<p>(状況) 平成29年度は1,761人で、平成28年度より77人増加、後期基準値より166人増加しています。 (原因) 多賀城駅周辺土地区画整理事業が完了したことによる利便性の向上及び多賀城駅前マンション等居住施設の増加が要因と考えられます。</p>								目標 達成度
									■ (中)

指標 ②	文化交流施設等の年間来館者数			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき
	成果	業務取得	上がると良い						
			商工観光課	万人/ 年	—	155	150	120	☁ (横ばい)
評価	<p>(状況) 平成29年度は150万人の来館者があり、平成28年度より5万人減少しましたが、後期目標値を達成しています。 (原因) 図書館や書店(多賀城駅北ビルA棟)の来館者が300万人を超えたことが要因の1つです。また、子育てサポートセンター(多賀城駅北ビルB棟)の利用や多賀城駅南側で実施したビアサミット、悠久の詩都の灯などの駅前イベントへ多くの方が訪れたことも、要因と考えられます。</p>								目標 達成度
									🏰 (達成)

□基本事業の成果状況と評価

基本事業 01 都市機能の充実

基本事業 02 中心市街地の活性化

基本事業01 都市機能の充実

指標①	中心市街地の空地率			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき
	成果	業務取得	下がると良い	都市計画課	%	39.4	31.6	31.2	17.5
評価	<p>(状況) 平成29年度は31.2%で、平成28年度より0.4%ポイント減少、後期基準値より8.2%ポイント減少しています。                  (原因) 多賀城駅周辺土地区画整理事業が完了したことによる利便性の向上が要因と考えられます。</p>								

基本事業01 都市機能の充実

指標②	多賀城駅や駅周辺施設が利用しやすいと思う市民割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	都市計画課	%	68.1	74.3	84.3	➔
評価	<p>(状況) 平成29年度は84.3%で、平成28年度より10.0%ポイント増加、後期基準値より16.2%ポイント増加しています。                  (原因) 多賀城駅周辺土地区画整理事業が完了したことによる利便性の向上が最大の要因と考えられます。</p>								

基本事業02 中心市街地の活性化

指標①	中心市街地における空き店舗数			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき
	成果	業務取得	下がると良い	商工観光課	店舗	7	9	13	0
評価	<p>空き物件のうち、テナント募集中の物件の件数です。                  (状況) 平成29年度は13店舗で、平成28年度より4店舗、後期基準値より6店舗増加しました。                  (原因) 前年度と比べ新規出店が1件、テナント募集開始が5件で差引き4件の増加となっており、これまでもあった潜在的な空き家物件が、駅前整備の状況を見て、テナント募集を再開したことが要因と考えられます。</p>								

基本事業02 中心市街地の活性化

指標②	中心市街地施設を月1回以上利用する市民割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	商工観光課	%	57.6	64.1	63.7	➔
評価	<p>(状況) 平成29年度は63.7%で、平成28年度より0.4%ポイント減少していますが、後期基準値より6.1%ポイント増加しています。                  (原因) 平成28年度は大きな向上が見られましたが、平成29年度はやや低下しました。市街地再開発事業が完了し、魅力的な施設が増加したことが、要因と考えられます。</p>								

□基本事業の成果状況と評価

基本事業02 中心市街地の活性化

指標 ③	駅前公園等でのイベント件数			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき	
	成果	業務取得	上がると良い	商工観光課	件/年	10	6	7	15	☁ (横ばい)
評価	(状況) 平成29年度は7件で、平成28年度より1件増加していますが、後期基準値よりは3件減少しています。 (原因) 多賀城駅南側の整備に係る広場が平成28年度から平成29年度5月まで使用できなかったことが要因です。				(件/年) 					目 標 達成度
					■ (中)					

基本事業02 中心市街地の活性化

指標 ④	駅前公園等でのイベント日数			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき	
	成果	業務取得	上がると良い	商工観光課	日/年	49	46	56	55	☀ (向上)
評価	(状況) 平成29年度は56日で、平成28年度より10日増加、後期基準値より7日増加しており、後期目標値を達成しています。 (原因) 第1四半期に、多賀城駅南側の整備のため、広場の使用ができませんでしたが、開催日数を増やしたイベントがあったことが要因です。				(日/年) 					目 標 達成度
					🏰 (達成)					



**政策 01 安全で快適に暮らせるまち**

**施策 08 安全で安定した水の供給**

**施策のプロフィール**

施策の対象	施策の意図
市民	安全な水道水を安定的に利用できます。

**施策の成果状況と評価**

指標 ①	水道に満足している市民割合			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	管理課	%	87.3	89.5	90.2	→
評価	<p>(状況) 平成29年度は90.2%で、平成28年度より0.7ポイント増加、後期基準値より2.9ポイント増加していますが、市民アンケートの指標であり統計誤差の範囲です。</p> <p>(原因) アンケート回答者の年代や地区により大きな差はありません。東日本大震災からの教訓を踏まえて、水道施設の更新、基幹配水管路耐震化事業等の継続的な実施について、広報誌「たがじょうの水道」、市ホームページ等を活用し、積極的に情報を発信していることが要因と考えられます。</p>								目標 達成度
					☑ (達成)				

□基本事業の成果状況と評価

基本事業 01 安全な水道水の供給

基本事業 02 水道水の安定的な供給

基本事業 03 健全な水道事業経営の推進

基本事業01 安全な水道水の供給

指標①	水道水供給に関する水質異常件数				単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき
	成果	業務取得	下がると良い	工務課	件/年	0	0	0	0	 (横ばい) 目標達成度  (達成)
評価					(件/年)					
	(状況) 平成29年度は0件で、後期基準値を維持しており、後期目標値を達成しています。 (原因) 毎日の水質検査の実施、水道施設の監視や維持管理、水質異常の原因となる老朽化した配水管の更新を計画的に進めていることが要因と考えられます。									

基本事業01 安全な水道水の供給

指標②	鉛製給水管の残存件数				単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき
	成果	業務取得	下がると良い	工務課	件	3,170	2,685	2,390	1,993	 (向上) 目標達成度  (中)
評価					(件)					
	(状況) 平成29年度は2,390件で、後期基準値より780件減少、平成28年度より295件減少しており、順調です。 (原因) 水道メーターの交換時に併せた鉛製給水管の布設替えを計画的に実施するとともに、配水管整備工事においても公道内の分岐部以降の布設替え等を行ったことが要因です。									

基本事業02 水道水の安定的な供給

指標①	突発的な断水事故件数 (災害を除く)				単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき
	成果	業務取得	下がると良い	工務課	件/年	0	0	1	0	 (低下) 目標達成度  (中)
評価					(件/年)					
	(状況) これまで、後期基準値の0件を維持してきましたが、平成29年度に1件の漏水事故が発生したことから順調ではありません。 (原因) 突発的な断水事故防止策として、漏水調査業務や老朽管の更新工事を継続的に実施してきましたが、他工事に起因する漏水事故が発生したことが要因です。									

基本事業02 水道水の安定的な供給

指標②	水道管耐震化率				単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき
	成果	業務取得	上がると良い	工務課	%	29.2	31.1	33.1	40	 (向上) 目標達成度  (中)
評価					(%)					
	(状況) 平成29年度は33.1%で、後期基準値より3.9ポイント増加、平成28年度より2.0ポイント増加していることから、順調です。 (原因) 配水管総延長196,345mのうち、平成29年度に5,494m整備したことと整備済み延長は65,054mとなり、計画的な整備を実施していることが要因です。									

□基本事業の成果状況と評価

基本事業03 健全な水道事業経営の推進

指標①	経常収支比率			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき
	成果	業務取得	上がると良い	管理課	%	106.3	106.4	105.9	100.5
評価	<p>(状況) 平成29年度は105.9%で、後期基準値より0.4ポイント減少、平成28年度より0.5ポイント減少していますが、後期目標値は達成しています。</p> <p>(原因) 収益では工場用途の使用水量増加による給水収益が増加している一方、費用では委託料や固定資産除却費などの費用が増加したことなどが要因です。</p>								

基本事業03 健全な水道事業経営の推進

指標②	有収率			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき
	成果	業務取得	上がると良い	管理課	%	92.9	95.6	95.5	93.6
評価	<p>(状況) 平成29年度は95.5%で、後期基準値より2.6ポイント増加、平成28年度より0.1ポイント減少していますが、後期目標値は達成しています。</p> <p>(原因) 年間総配水量が突発的な漏水事故で増加したことが要因と考えられます。一方で、年間総有収水量は工場用途等の使用水量が増加しているため、漏水事故がなければ平成28年度実績値を維持しているものと考えられます。</p>								

基本事業03 健全な水道事業経営の推進

指標③	自己資本構成比率			単位	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H32)	指標の うごき
	成果	業務取得	上がると良い	管理課	%	58.1	61.3	63.8	61.8
評価	<p>(状況) 平成29年度は63.8%で、後期基準値より5.7ポイント増加、平成28年度より2.5ポイント増加しており、後期目標値を達成しています。</p> <p>(原因) 総資本のうち負債の企業債残高が減少したこと、また、自己資本については、工事負担金や受贈財産等の事業活動により造成される繰延収益が増加したことなどが要因です。</p>								